

Passo a Passo



平成25年度 専修大学 資格課程年報『パッソアパッソ』

教 職 課 程
司書教諭課程
司 書 課 程
学芸員課程

vol.16

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、2009年、創立130年を迎えました。

専修大学は、1880年(明治13年)、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉学する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。



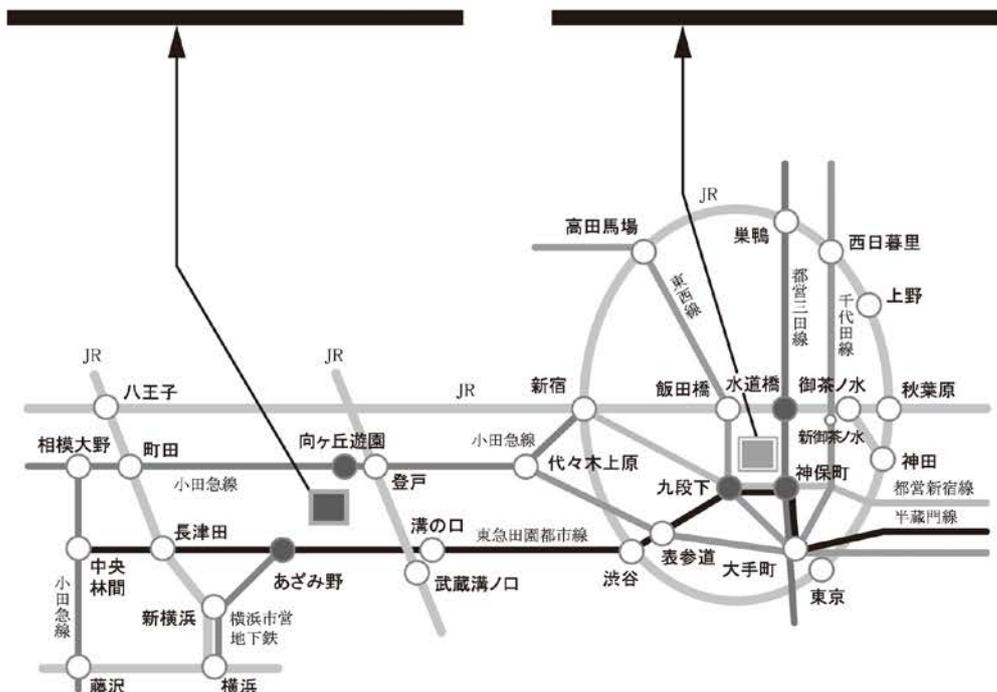
生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅(新宿から急行で約20分)
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス(学生専用)約20分



神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



あきらめないで

教職課程協議会委員長 文学部 教授 荻原 幸子

本誌「パッソアパッソ」を愛読している。毎号、司書・司書教諭から学芸員課程と読み進め、最後に「教員採用試験体験記」を読む。採用試験に合格した執筆者らが記した内容は、概ね一次試験に対してどのように勉強をしたか、二次試験に向けてどのように準備をしたかということであるが、いわゆる合格を得るためのノウハウではない。どれも一見すると似ているが、努力の過程や、目的を達成した喜び、これからの抱負が、それぞれの言葉で表されていて、少しずつ違っている。その違いが、その人らしさなのだと思う。教職課程の担当ではないため、実は会ったことも話したこともない人ばかりだが、教員になりたいという一途さに感動し、合格を喜び、そして読後は何かしら元気をもらっている。ほぼすべての執筆者が、家族や友人らへの感謝の言葉を記していることも大変嬉しい。

採用試験の合格は、あくまでスタート地点ではあるが、そこに至る過程は人生の一つの成果であると思う。教員、司書、学芸員を目指している現役の学生さんたちの、現在の努力の過程が、何かしら実りますようにと思わずにはいられない。

そこで、この機会に何かしら応援の気持ちを伝える内容を記したい・・・と思いつつ日々過ごしていたところ、とあるテレビドラマの中で、一人の男性がこんな台詞を言っていた。

“私は今まで、逃げるやつ、誘惑に負けるやつを、たくさん見てきました。でもあいつは・・・一度も楽な方を選ばず、弱い自分を認めてやり直した・・・それがどれだけ大変なことなのか、あなたにはわかるはずですよ。”
「あいつ」とは男性（「私」）の後輩であり、かつて誘惑に負けて、まずいことをやってしまった過去がある。そのことを嘲笑する相手（「あなた」）に対して、先輩である男性がたしなめるという場面であった。

さてその翌日のこと、常々拝読しているところある大学の先生のブログの、あまりにも率直な一節に目が吸い寄せられた。いわく、“僕は、僕という人間自身が「意志が弱いこと」「行動を継続するモチベーションがあまり強くない

こと」を知っています。そういう人間観のもとで、いろいろな研究をしています。”

強靱な意志のもとに自らを律して、目標を達成していくことができ

れば、もちろんそれに越したことはない。しかし、意志が弱いから、それでもうダメかと言えば、どうもそうでもないようだ。肝心なことは「弱い自分を認めること」と、そういう自分から「逃げないこと」ではないだろうか。

先のブログの先生は、＜弱いわたし＞のダイエットの秘訣は、(1)日常的に少しタイトな洋服を選び、体重の変化を服に教えてもらう、(2)「最近太った？」とストレートに言ってくれる人がいる、もしくは、体重の変化に関心のある人々のネットワークに入ることだという。なるほど、自分の弱さを認め、かつ逃げないことではじめて、目標を達成するための、自分にとって効果的な方法や工夫が具体的に考えられるのだと思う。

そういえば採用試験体験記にも、「まだまだ遊びたい気持ちがあったが、一般企業を希望している友人達の内定を聞き、本気にならなければと気づいた」「気が緩んでいたところを、恩師や友人から背中を後押しされた」とあり、なんだか親近感を覚えたりもする。また、「一緒に目標を持つ仲間との勉強会が非常に有意義であった」「集中力が続かないときは、時間や単元で区切ったりした」など、自分に適した色々な工夫をしていることも分かる。必ずしも皆が、強靱な意志のもとに自らを律して着々と・・・ということでは無さそうでもある。

資格課程受講生は「教員、司書、学芸員として働きたい」という希望を少なからず持っていると思う。もしも「自分は意志が弱いから、採用試験に合格するのは難しいのではないかと考えているのであれば、それはすでに「弱い自分を認める」ことができていることになる。あとは、逃げずに、あなた自身に適した方法を考えるだけだ。よければ、一緒に考えましょう。あきらめないで。



Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

日中米教育文化交流と教育協力の歩み ―明治後期を事例として―

商学部 教授 蔭山 雅博	6
いにしえ 古のジャポニスム ―フランスに滞在して―	
文学部 教授 高橋 龍夫	8

教職課程

卒業生から	12
教員採用試験体験記	16
教育実習を終えて	21
教職総仕上げ「教職実践演習」	28
言語活動の充実とソムリエの言葉	
文学部 兼任講師 山下 直	30
介護等の体験を終えて	32
専修大学教育学会に参加して	33
教科研修生体験レポート	34
多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート	35
専修大学附属高等学校から 「生徒のため」と「生き様」	
私立専修大学附属高等学校 教諭 米元 洋次	36

司書・司書教諭課程

さまざまな立場にある図書館利用者について学ぶ授業	
文学部 兼任講師 成松 一郎	38
図書館実習を終えて	40
在学生から	41

学芸員課程

現場から見た学芸員の職務について	
公益財団法人メトロ文化財団地下鉄博物館 学芸員 細川 海里	44
博物館実習を終えて	46

データ編（平成25年度）

資格課程履修者数	50
教員免許状取得状況一覧	51
教育実習先一覧	52
図書館実習・博物館実習先一覧	55
主な就職先一覧（教職、司書・司書教諭、学芸員）	56
資格課程年間行事表	61
教職公開講座開催結果	62
司書課程就職（進路）懇談会開催結果	63
資格課程教員紹介	64
編集後記	

■4つの資格課程

教職課程…中・高の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者に要求される教育職員免許状を取得させるためのものであり、教員を養成することを目的としています。加えて、平成10年より「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(介護等の体験法)が施行され、中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者には、介護等体験が義務付けられています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	地理歴史、公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本語学科	国語	国語
	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
	人文・ジャーナリズム学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民

※「教員免許更新制」

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。これが教員免許更新制です。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。本学では、免許状更新講習を夏休休暇中に実施しています。

司書教諭課程…学校図書館の専門職

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な仕事に携わる教員のことです。司書教諭は教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、児童・生徒に対して図書館利用や読書に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は教育職員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する者は教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

2003年度からは12学級以上の規模の学校には必ず司書教諭を配置することになりました。そのため、教育の現場では司書教諭の有資格者へのニーズが高まっています。

司書課程…公共・大学図書館等の専門職

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、資料(図書、雑誌、DVD等)を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職のことです。

司書の資格を取得するには、司書課程を履修する必要があります。

司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、急速に普及している電子メディア(インターネットなど)の活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・高度情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

教職課程

本が好き
図書館で働きたいなら



司書課程・司書教諭課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイドンス

1～4年次
教職課程履修登録
4月上旬

1～4年次
司書課程履修登録
4月上旬

1～4年次
司書教諭課程
履修登録
4月上旬

1～4年次
学芸員課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等の体験
(中学校教諭免許取得希望者)
5月下旬～3月上旬

4年次
教育実習
5月～11月

4年次
図書館実習
(希望者)
8月～11月

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業時(事前に申請した者)
教員免許状の交付
3月

卒業後(希望者)
司書課程単位
修得証明書の
申請および交付

卒業後(事前に申請した者)
学校図書館
司書教諭講習修了証書
の交付

卒業時(事前に申請した者)
学芸員資格取得証明書
3月

司書・司書教諭課程サポート

学校図書館見学会 7月開催

司書教諭課程受講学生を対象として、学校図書館見学会を実施しています。

司書課程就職(進路)懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、図書館関連の就職や大学院進学について懇談をしています。

学芸員課程サポート

文化財セミナーを開催

平成20年10月に専修大学130周年記念文化財セミナー「発想転換」を開催しました。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、これまで小学校教諭の免許状取得の道はありませんでした。ニーズの高まりに対応するため、玉川大学と連携し、2007年度より小学校教員養成特別プログラムをスタートさせました。本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすものです。ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校で、教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、7校と連携し、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる貴重な制度です。原則として3・4年生、大学院生、本学出身の科目等履修生が対象となります。

教員採用試験対策講座(エクステンションセンター主催講座) ガイダンス:4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいか戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通じた計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

日中米教育文化交流と教育協力の歩み —明治後期を事例として—

商学部 教授 蔭山 雅博

1. 中国人の日本教育視察

西欧の衝撃が、東アジア諸国の教育近代化を推進せしめた外的要因であったことは、周知の事実である。アヘン戦争の敗北以降、中国では、西欧の科学技術、文物制度の積極的導入を図ろうとする動き、即ち「洋務運動」(西欧化運動)が展開する。これを積極的に推進したのは、開明的官僚であった。彼らは洋務運動の一環として、1872年、アメリカに中国人の若者30人を派遣し、航海術、軍政学を学ばせた。これが、中国における海外留学の嚆矢である。

中国人による日本留学が本格化するのは日清戦争以降である。中国人にとって、東海に浮かぶ小国・日本との戦争に敗北したことは衝撃的出来事であった。その真因を究明するため、洋務派官僚は各分野の専門家を日本に派遣、彼らに維新以後の教育と産業の発展経緯を詳細に把握することを求めた。彼らは、その任務を果たすべく、精力的に調査を進め、文部省をはじめとする教育行政機関、高等教育機関、教員養成機関、実業教育機関、さらに各地の初等・中等教育機関を歴訪した。彼ら知識人にとって、明治日本は研究材料の宝庫であったようで、教育と実業のみならず、広く文物制度をこと細かく調査、報告書即ち『東遊日記』を相次いで著している¹⁾。

報告書を受け取った洋務派官僚の一人、張之洞は『勸学篇』(1898年刊)を著し、その中で、日本モデルの教育近代化に着手することを高らかに宣言した。教員養成制度と実業人養成制度から成る複線型の日本の学校制度、および儒教道徳を重視する日本の学校教育が、中国の国情に適合すると判断したのである。こうして、清朝政府を担う洋務派官僚の大半は教育近代化方策として、中国人学生の日本留学、および日本人教師の中国招聘を率先して実施、ここに明治日本と清朝中国の教育交流が始まることとなる。

2. 中国の近代と科挙

ここでは中国の教育近代化を促

した内的要因を指摘しておこう。周知のとおり、中国は古くから官吏登庸試験制度としての科挙を実施、これに伴って自然発生的に生起する、ありとあらゆる教育的営為は、科挙に収斂されたと言ってよい。とくに明清時代には、書院や府・県に設置された学校はもとより、私塾、社学、義塾(原則初等教育所)などで実施される教育内容、教育方法も、科挙に全面的に制約された。

科挙体制下の教育の一端を示すため、科挙廃止(1905年)直前の20世紀初頭の私塾教育の一例を見てみよう。当時の私塾に於いて使用されたテキストの典型は、『百家姓』と『三字経』であった。いずれも児童の識字教育のために編纂されたものであり、前者は、一般的な民衆の姓名はもとより、歴史上の人物や物語に登場する人物の姓名も取り入れ、識字を通して歴史、文学の素養が養われるよう配慮された、いわゆる合科学習機能を有する識字テキストであった。後者は、数字、四字、方角、五行、儒教の經典などを活用し、中国各時代の特色的事項、学問研究の在り方など、極めて常識的なことを説いたものである。毎句三字で構成し、隔句ごとに韻をふみ、数句で韻を変えるなど、できる限り多くの漢字が短期間に覚えられよう配慮がなされている。知識人として歩むべき「道」が習得できるよう工夫された、儒教道徳的性格を有する識字テキストと理解できよう。一説によると、進士の合格までに、受験者が記憶しなければならない漢字数(含、熟語)は、431,286字であったという。著名な中国人学者・郭沫若は、幼年時代を回顧して、次のように述べている。「いわゆる『撲することを教刑とする』、これが私の家の昔からの教育方針だ。いいかえれば、子供に教えるには、ただ『打』の一字あるのみだ。打たねば一人前にならぬ、打って役人に仕上げる、読書は役人になるためのものであった・・・²⁾」と。正に、師に背を向けて誦んじ、間違えれば体罰が科せられる「背誦」が、科

挙時代の一般的な教育方法であった。

日本モデルの近代教育を積極的に取り入れようとした洋務派官僚は、こうしたいわゆる「科挙体制」下の教育状況を見て、これを取り入れるに足る素地が、中国社会には醸成されていると認識したのであろう。やや飛躍した解釈ではあるが、科挙の確立過程は、民衆の教育を受ける機会が漸次拡大していく過程であったように思われる。換言すれば、清末中国の社会には、近代スクールシステムを導入し、これを成立させよう、幾つかの条件が萌芽していたことになる。①教育費の受益者負担の原則が、ある程度浸透していたこと。②公費による、就学希望児童に対する就学措置が実行されていたこと。③学校階梯が用意されていたこと。簡易初等教育所の上位には、公立学校としての県学、州学、府学があり、科挙試験が上に進むに従い、県・州学から府学へと進学していたことから、少なくとも3階梯の公立学校が存在していたことになる。

3. 明治日本の教育文化交流と教育協力

明治日本は清末中国に対して、いかなる教育協力をを行い、どのような教育交流を進めようとしたのか。中国人留学生に対する日本側の受け入れ状況と、中国の教育改革に対する日本側の支援・援助という2点から考えてみよう。

外務省外交資料館に現存する文書によれば、1907年の中国人留学生総数は、約6,800人である。これをピークに留学生数は漸次減少し、1910年には約4,000人、明治末年には辛亥革命が勃発したことと相俟って、約1,500人となり、7年間で総数は5分の1に減少している。当然のことながら、中国における日本留学ブームは一挙に沈静化していくことになる。受け入れ状況を、学校種別にみる



と、1907年の場合、私立大学が最も多く、約2,600人。ただし、当時の私立大学は、予科1年、本科3年の教育課程と必要最低限の教授陣を揃えて、「大学」と称していたに過ぎず、実際は高等教育機関としての「専門学校」であった。従って、卒業生に学士学位を授与する権限はなかった。このことが、やがて日本留学に対する中国側の評価に暗い影を落とすこととなる。私立大学に次ぐのが、留学生のための予備教育(中等普通教育)と日本語教育を目的とする特設教育機関である。嘉納治五郎の運営に関わる宏文学院、明治大学経緯学堂、早稲田大学清国留学生部、東京同文書院等が代表的存在であった。この他、東京警監学校、岩倉鉄道学校、同仁医薬学校などに、さらに女子教育機関にも在籍した。下田歌子の設立した実践女学校は、中国の女子教育機関のモデルの一つである。さらに、彼らの専攻を見ておこう。最も多かったのが官吏養成を目的とする法学および政治学である。次いで小学堂(校)教員の養成を目的とする師範学、以下、軍事・警察学、鉄道技師、医学・薬学が続く。女子留学生の専攻を見ると、師範学が最多で、以下、幼稚園教諭、保姆、裁縫が続く。

中国各地の諸学堂に渡った日本人の活動状況を、外務省記録『清国官庁雇本邦人一覧表』1909年版に基づいて見ておこう。分布状況を見ると、直隸省(現河北省)が最も多く114人、次いで江蘇・安徽・江西省から成る沿江三省(三江地方)の60人、さらに湖南・湖北省から成るいわゆる両湖地方の57人。以下、四川省、広東省、東北三省、江西省と続く。活動状況を学校段階別に見ていくと、師範学堂が最も多く100人を超え、次いで実業学堂の78人、武備学堂の58人、高等教育機関の51人と続く。逆に、比較的少なかったのは、外国語学堂と小学堂である。小学堂への赴任数が少なかった理由は日中両国にそれぞれの事情があった。日本側の場合、小学校教員が慢性的に不足してお

り、師範学校で養成された正科教員の中国への派遣を許容するゆとりがなかった。中国側の場合、初等教育機関を科挙試験合格者の活動の場として、確保しておく必要があった。さらに、担当領域別に見ると、理科・数学領域が最も多く40人、次いで実業領域の39人。以下、法律・政治領域、語学(日本語)領域、普通学領域と続く。これらに次ぐのが、総教習で14人。この総教習とは、学校では教頭に相当する役職で、学堂運営が主要な任務であった。総教習として招聘された日本人の多くは、教育行政機関・学務処の顧問を兼務し、省レベルの教育近代化事業に重要な役割を果たしている³⁾。

4. 日本モデルからアメリカモデルへ

清末中国において日本モデルの教育改革が実施されて間もなく、日本と競合する勢力による、中国教育界への積極的な働きかけが開始された。その勢力の筆頭が、アメリカであった。西欧諸国や日本に、一步遅れて、中国への進出を始めたアメリカは、教育協力と交流を積極的に実施することを通して、経済、政治、文化面における交渉と交流を、優位に展開しようと考えたのである⁴⁾。その積極的な働きかけの第一歩は、イエール大学、コーネル大学、ウェルズレー女子大学からの中国人留学生受け入れの申し出であった。その働きかけに応じて、1907年、12人の男子留学生と3人の女子留学生が、これらの大学に派遣された。これに次ぐ積極的な働きかけは、キリスト教宣教会によるものであった⁵⁾。最も注目すべき働きかけは、義和団賠償金を活用しての組織的なアメリカ留学である。アメリカの計画は北京に中等教育機関としての清華学堂(現清華大学)を設置し、その卒業生を優先的にアメリカの大学に留学させるというものであった⁶⁾。

こうした留学状況をみると、日本への留学状況との決定的な相違が明らかになってくる。アメリカ留学は、その数において、日本留

学を上回ることはなかった反面、質的には日本留学を凌駕していた点である⁷⁾。1923年、中国教育界は、日本モデルの学校制度を廃止し、アメリカモデルの6・3・3制の学校制度を実施することになるが、これはアメリカ留学帰国者の社会的影響力が反映したものと思われる。

注

1) 京師大学堂(現北京大学)総教習(副学長)呉汝綸は『東遊叢録』、甲骨文字研究者羅振玉は『扶桑両月記』、中国実業界の重鎮張謇は『扶桑遊記』をそれぞれ著している。

2) 郭沫若『私の幼年時代』東洋文庫 1982年。

3) 外務省外交資料館に現存する記録文章は膨大であるが、1905年以前の中国人留学生の留学状況を示す統計資料類は見当たらない。ここで活用した記録文章は、以下の通りである。「支那留学生收容学校数並員数調」、「直轄学校在学支那朝鮮留学生員数調」(外務省記録文書『在本邦支那留学生関係雑纂第一・陸軍学生・軍学生外ノ部・日華学会ノ部』所収)。

4) 外務省『欧米人ノ支那ニ於ケル文化事業』を参照した。残念ながら、この点についての詳細な研究はなく、今後解明されるべき重要課題である。

5) 丁致聘『中国近七十年教育記事』光緒33年5月の項による。なお、当時の大半の教団本部は“Annual Report”を公刊し、当該年度の布教活動や慈善活動および教育文化活動などを原則国別に記録している。清末民初期中国における彼らの教育文化活動も同書により、その概要を捉えることができる。同書は教団本部附属図書館およびWashington, D.C.のNational Archives(国立公文書館)などにおいて閲覧することができる。

6) 拙稿「アメリカ留学帰国者の社会的活動」、阿部洋編『米中教育交流の軌跡』所収1985年。

7) 阿部洋「中国人のアメリカ留学」、阿部洋編『米中教育交流の軌跡』所収1985年。

古のジャポニスム —フランスに滞在して—

文学部 教授 高橋 龍夫

2013年度、国外研究員としてフランス・パリ第7大学に所属し、1年間の研究期間をいただきました。この間、授業をはじめ各種委員等の業務を免除させていただき、関係の方々大変お世話になりましたこと、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

研究テーマは、「日本近代文学とジャポニスム」でした。19世紀後半から20世紀初頭、フランスを中心に欧米全土で、日本の美術や工芸品、和歌や俳諧がジャポニスムとして受容されたことは今では広く知られています。私たちが印象主義や後期印象派の画家たちの作風やエミール・ガレのガラス工芸などに馴染みやすいのも、彼らがそれぞれにジャポニスムの影響下に創作していたことが少なからず関係しています。一方、日本では雑誌「方寸」や「白樺」などによって、ロダン、セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャンなどが盛んに紹介され、近代美術や文学に大きな影響を与えます。今回は、ジャポニスムを介した西洋と東洋との交流の軌跡を辿り、日本近代文学に与えたジャポニスムの諸相について調査することを目的にフランスに滞在しました。しばしばジャポニスムゆかりの美術館や文学館、画家や作家の滞在した町や生家なども訪れ、ときに彼らが所蔵していた日本の浮世絵や工芸品などにも出会いました。一例をあげれば、ゴーギャンが滞在したブルターニュ地方の小さな町ポン・タヴェン、印象主義の画家たちが美しい風景を求めて滞在したエトルタヤオン・フルール、ゴッホが日本に憧れて移り住んだアルルと終焉の地オーベル・シュル・オワーズ、

モネが日本風の広大な庭を配したジベルニー、セザンヌのアトリエを残すエクサン・プロバンス、ブルーストの「失われた時を求めて」に登場するイリエ＝コンブレ、フローベールの生家ルーアン、日本人ともよく交流したゴンクールのパリの家、高島北海と出会って作風を変えたガレの工房・ナンシーなどです。一方で、日仏の架け橋となった林忠正をはじめ、高村光太郎や永井荷風、荻原守衛、与謝野晶子、島崎藤村など、渡仏した日本人ゆかりの場所も訪れ、彼らが感じたであろう異国の雰囲気や僅かながら実感することができました。フランスで認められた画家・藤田嗣治が晩年に住んだアトリエは、パリ近郊の小さな町ヴィリエール・ル・バクルの緑豊かな雰囲気とも相俟って、大変印象に残っています。

私の住まいはパリ近郊に位置す



藤田嗣治のアトリエ

る、ロダンのアトリエにほど近いイッシー・レ・ムリノーという街にありました。週に2回開催されるマルシェに足を運ぶと、フランスの食生活の豊かさを実感することができます。食料の自給率はな

んと100%を上回っているようですが、広大な国土に広がる小麦畑や牧草地と東と南に接する大西洋と地中海は、確かにそれを証明しています。色とりどりの野菜や果物、種々様々な魚介類、多彩な種類のチーズ、そして香り高いフランスパン、こういった食材を人々は店員と会話を交わしながら買い求めます。私もいくつかのお店と顔なじみとなり、楽しく買物ができたのはいい思い出となりました。ちなみに、フランス人はコミュニケーションをとっても大切にしているので、どんな場面でも挨拶は欠かせません。街を歩いていても、お店の中でも（私がフランス語の初心者にもかかわらず）よく話しかけられました。美術館や文学館では、学芸員から懇切丁寧に説明を受けたことが何度もありました。また、公共機関や文化施設の窓口に並ぶとなかなか順番が回っ

てこないのが最初は苛立ちましたが、一人一人を大切に丁寧に対応するお国柄に次第に納得するようになります。ともすると多くの人々の集う場面では、公益を優先するあまり個人が

軽視されがちですが、フランスではその逆で、個人を大切にするとところから全てが始まるように思われました。そのため、イベントの開催などが予定より遅れたりするケースも少なくないのですが、フ

フランス人はさしてこだわらず、一人一人の事情のほうを最優先するようです。それが顕著と思われたのは、子育てをする男女や老人に対する街全体の優しさです。バスの車内の混雑時でも、ベビーカーを置くスペースは必ず空けますし、老人の手を取って乗り降りを手伝う場面に何度も出会いました。街の随所にある公園には、子どもたちが自由に遊べるスペースが広く取られ、誰でもゆっくりと座って休めるベンチも確保されています。日本に比べて、買物や散歩を楽しむ小さな子連れの親や老人の数がずっと多かったように記憶しています。そういう点でも、パリは、街の成熟度を感じさせる都市です。

フランス各地の街並みの美しさにも感心させられました。教会を中心として形や色に統一感のある建物が建ち並び、100年以上も美しい景観を保っている町にたくさん出会いました。一步郊外に出れば、小川が流れ緑の広がる自然の風景へと変わり、暮らしの豊かさというものを風景によって感じ取れるような思いにさせられます。景観保全制度とともに個人の暮らし方を優先する思想が街作りにも貫かれているからでしょう。とはいえ、フランスは原発大国です。レンタカー（左ハンドル、マニュアル車です）で緑の広がる地方を移動中、白煙の立ち上る原子力発電所の建て屋を川沿いに何度も見かけました。それでも、原発の近隣にあるB&Bなどに泊まると、宿のオーナーも宿泊客も、「フクシマ」を心配してくれるかたわら「日本と違ってフランスの原発はとても安全だよ」と口を揃えて言いま

す。その点だけは、どうも共感できなかったのを覚えています。

ところでフランス、特にパリは人種のるつぼです。これは地下鉄に乗ったり街を歩いたりしてすぐに実感したことです。フランス人の定義は、フランス語を話しフランスに住む人々の集合体をさすのだそうですが、確かに、アフリカや中東、中欧、中南米、アジアなどから、様々な歴史的・経済的・社会的経緯でフランスに住む人々が相当数います。こういった事情がコミュニケーションの豊かさにも直結してくる一方で、職種や文化の棲み分けの問題にも絡んできます。例えばコンサート会場や美術館、レストランなどに出入りする人はほとんど白人なのに、働きの多くは世界各地からの移住者です。中欧から職を求めて移入するロマと呼ばれる人々は、定期的に路上生活の場を一掃されてしまいます。どの国にも光と影はつきものですが、目に見える形で生活水準や職種の差異というものを突きつけてくるのもフランスの実情でした。

地下鉄といえば、車内で乗客が“HARUKI MURAKAMI”を読む場面に何度も遭遇しました。町の書店には『1Q84』の仏語訳が堆く積み、日本の近現代作家の仏語訳も数多く見かけましたし、マンガコーナーには日本のマンガの仏語訳がずらっと並んでいます。



住居沿いのセーヌ河

毎年7月に開催される日本文化フェスティバルではヨーロッパ中のアニメファンなどで年々来訪者が増え続け、去年は7万人に達したそうです。パリ日本文化会館では、日本映画特集が3ヶ月間も組まれ、一般の映画館でも日本映画はよく上映されています。私もパリで初めて「おくりびと」と「東京物語」を観ました。ちなみに、映画の入場料はとても安く、数ユーロで観ることができます。また、去年はパリのピナコテークという美術館で「ゴッホと北斎展」が開催され、会場は来場者で混雑していました。このように、ジャポニスムの流行から100年以上も経た現在でも、日本との文化的結びつきは深いと思います。日本に住んでいると、衣食住のあらゆるシーンでアメリカを意識することが多い現代ですが、フランスをはじめとするヨーロッパとの関係について改めて問い直すいい機会でもありました。

ジャポニスム研究をめぐるフランス滞在を終えて1年が過ぎようとしている今、日本よりもゆったりとした時の流れに身を置くことのできた貴重な体験の意味をじわじわと感じています。



教職課程



私は、現在、東京都池袋にある豊島学院高等学校で、英語科の専任教諭として勤務している。今年で3年目を迎え、2年生の担任をしている。教員を目指す皆さんへ、「クラス運営」、「教科」、「部活」の3点から話をし、皆さんの今後の参考になればと思う。

まず、私がクラス運営を行う上で一番大切にしていることは「この子たちをどうしたら立派な社会人として卒業させられるか」ということである。そのために、常日頃から「挨拶をしっかりとすること」、「制服を正しく着こなすこと」、「提出物は必ず期日までに出すこと」、「集合時間の5分前にはいること」の4点に関しては口うるさく言っている。それを守れない生徒に対しては大声を出して注意することも少なくない。どれも社会に出たら基本的でもっとも必要な4点であると私は考えているからだ。勤務1年目には大きな失敗があった。この学校に勤務し始めた1年目、上記4点のどれに対しても生徒にうまく指導することができなかった。「強く言ったら生徒に嫌われるかもしれない」、私はそれを一番恐れていた。しかし、1年目を振り返った時、「このような指導では生徒たちを立派な社会人として成長させることができない、今までの行動は教員としてあまりにも無責任であった」と猛省した。私が改めて思ったことは、「教員という仕事は時には生徒に嫌われるようなことも言わなければならない」ということ。それも全て教員としての役目だと実感した。

次に、教科に関して述べたい。はっきり言って、「英語が好きだ」という高校生はあまり多くはない。また、「大学受験の英語は使えない英語だ」と思っている生徒も少なくない。ただ、「できるなら、英語を話せるようになりたい」と思う生徒は意外と多い。授業を展開する上で、まず「どうやったら英語を好きにさせられるか」ということを常に考えている。無理やりに負荷をかけて英語をやらせることは簡単だが、それでは英語嫌いを克服

することはできないし、「やらされている」ようでは伸びない。自発的に取り組んで初めて身に付くものであると考える。したがって、授業の中でも洋楽や洋画を用い英語を少しでも近い存在にさせることや、日常会話でも使うなど、コミュニケーションに繋げることに意識して授業展開している。教科書だけではなく、違う視点から英語に触れ、英語の苦手イメージを少しでも変えようと努力している。また、洋楽や洋画を扱うことで大学受験の英語も無駄ではなく、日常的に使われているということ伝えようとしている。授業研究に関しては終わりが無いが、またそれが面白いところである。



部活動では硬式野球部の顧問をしている。練習は週に5日、土日も朝から晩まで部活である。私自身野球は好きだが、硬式球は握ったこともない。私の得意な分野の部活ではないが、意中の部活の顧問になれないことはよくあること。正直、「休みが少なく大変な部活の顧問になった」と思っていたが、そんなことは生徒たちの直向きな姿を見ていたらいつの間にか思わなくなっていた。生徒たちはみな野球が好きで、失敗しても何度も立ち上がり、必死で白球を追う。そんな姿を見ると自然と「勝たせてあげたい」と思うようになった。2年間、公式戦で1度も勝ったことがなかったチームがこの夏東東京大会でベスト16まで勝ち進んだ。その時の感動や生徒たちの笑顔を見ると、「今まで野球部で頑張ってきてよかった」と素直に思った。

最後に、教員という仕事は正直大変な仕事だ。子供を預かっているという責任は常に頭にある。友人には「教員には絶対なりたくない、大変だから」と言われるが、私は今まで教員になって後悔したことはない。それ程、毎日充実している。自分が頑張れば頑張った分生徒は応えてくれるし、卒業生が高校の職員室を訪ね「高校時代が一番楽しかった、戻りたい」と当時の担任と話している光景を見ると「早く卒業生を出したい」と心から思う。



『パッソ ア パッソ』のバックナンバーを拝見させていただくと、平成の時代、それも比較的最近卒業され、教職に就かれた皆さんが多いように感じます。私のような、昭和の時代の古い卒業生がこのようなお話を頂き、正直いいのだろかという気持ちです。また、比較的東京近郊で教職に就かれた方の手記が多く、都会から離れた東北で教職を勤めている私に今回のお話を頂いたことは、一方で、逆に意義のあることなのかも知れないと感じたりもしています。



仙台市代表として、吉成中吹奏楽部は2年連続宮城県大会出場上位入賞

専修大学には全国各地から学生が集まります。当たり前のことですが、それは全国各地で卒業生が活躍しているということなのです。平成22年10月に仙台市で『第43回全国中学校社会科教育研究大会宮城・仙台大大会』が開催された際、私は事務局長という大役を仰せつかり、予算や組織、準備日程や会場の予約等に奔走しなければならなくなりました。そんな折、仙台市での全中社研理事会で、当時全中社研事務局長（現全中社研会長・専修大学教育学会副会長）齋藤博志先生とお会いし、先生が専修大学の先輩であることがわかったときの安堵感は今も忘れられません。齋藤先生には、本当に多くを助けて頂きました。大会当日は、前年度の全国大会開催県である宮城県からも多くの先生方が参加してくださり、宮崎大会で授業をされた先生からも声をかけて頂きましたが、その先生も専修大学の後輩だったので、専修大学を卒業した方々が全国で活躍されていることは、私を支える大きな力です。

実は私は、専修大学で学ぶ中で教師になることを目指すようになりました。きっかけは2つあります。1つは代表（部長）も務めた専修大学ボランティア活動研究同好会『樹々の会』での活動です。小田急多摩線沿線にあった、ある児童施設を中心とした障がいを持った子どもたちとの関わりと、施設職員や地域の方々や接する中で、多くのことを学びました。さらに、在学中に横浜市の県立児童養護施設で、泊まり込みながら勉強を教える仕事を頂き、そこでの体験が、私が社会福祉に関する仕事ではなく、教育職を目指すきっかけとなりました。学園（児童養護施設）には、親である大人たちの様々な理由で家庭にすることができない、0歳から18歳までの子どもたちが生活しているのです。自らの生い立ちや境遇を語る、彼らや彼女らとの会話のひとつひとつに、大きな衝撃を受けていました。

勉強を教えるはずの私が、逆にどれだけのことを教えられたか知れません。当時中学校の『荒れ』が大きな問題となっており、学園（児童養護施設）の子どもたちが通う中学校も例外ではありませんでした。卒業後は福祉施設の指導員も考えていましたが、ある日、学園の中学生から「眞壁先生みたいな人がうちの中学校にいてくれたらなあ・・・。」と言われたのです。その言葉で、教員採用試験に真剣に取り組もうと考えるようになりました。

もう1つの理由は、ほかならぬ専修大学の素晴らしい先生方との出会いです。嶺井正也先生と出会ったのは『教育行政学』の授業ではありましたが、学部を問わず先生の元に来る多くの専修大学生と共に、様々な『現場』に連れて行って頂きました。その中で「差別」や「人権」といった課題について、常に現場を見て・感じて・考え・行動することの大切さを教わり、教職への強い思いが生まれてきたように思います。先生の声かけで『桑の会』という自主ゼミを立ち上げ、それは現在でも続いています。宇都栄子先生の文学部の授業にも参加させて頂きました。社会福祉のあり方や地域のあり方についてじっくりと考える機会を得ることができたことは、私にとっての糧となっています。時には先生方の研究室で、時には他の学生とともにお酒を交えながらのお話は、今でも私の礎となっています。

さて、『中学校教諭を目指す皆さんへ』と題させて頂きました。仙台市では東日本大震災以降、中学校を中心に、防災や災害時の人命救助にも役立てようとする取り組みを始めています。地域や保護者との連携、さらには小学校との連携をも取りながら、多くの人々と直接関わりつつ、子どもたちを育てていくためのプロセスができつつあります。こういった動きは確実に全国に広がっています。そのため中学校教師には、とりわけ多くの人と関わる力が求められています。学生である今、多くの「人」と実際に関わり、つながりを持ち、「たくましさ」を身につけた教師を目指して下さい。教科の指導法・学級経営・校務分掌・事務的な手続きや起案等は、いやが応でも現場で学ばなければなりません。学生である今は、『なにがなんでも教師になる。』と言う気持ち強くするために活動することを中心に据えた時間だと考えます。だからこそ採用試験に合格した教師となった時の喜びは大きく、それは、私の今をも支えているのです。



前任校で担任学級が3年連続球技大会優勝

卒業生から（商業）

私立鹿児島実業高等学校 教諭 永野 武治（平成15年度商学部商業学科卒業）

私は、平成16年から学校法人川島学園鹿児島実業高等学校の教員として商業科目の担当をしています。教員生活も10年目に入り多くの先輩や同僚に囲まれて日々変わる教育現場で生徒と一緒に切磋琢磨しております。今回、教職課程履修生へのメッセージとして本稿を書かせて頂くことになり、私自身も教員生活を振り返ることができ、気持ちを新しくすることができました。今後、教職の現場での活躍を希望している学生に少しでも何か伝えられればと思っております。



私は現在、商業科目の授業以外に担任、部活動の顧問、情報ビジネス系列主任などの校務分掌を担当しております。その中、教員は教科指導をするだけが仕事じゃないということを経験し、多くの先輩教員に教えてもらいました。学校生活の中で生徒は、これから社会に出て行くために最低限必要な礼儀やマナーなども習得しないといけません。毎日の学校生活の中で基本的な生活習慣や社会に出て通用するようなコミュニケーション能力なども養っていくことも教員の役割だと感じております。実際に本校は毎朝、全体朝礼を全校生徒で行います。その中で、身だしなみの確認や生徒の健康状態のチェックなどを行います。一人一人の生徒を確認し生徒の様子をチェックすることから一日の学校生活が始まります。入学したての生徒は慣れない面も多々ありますが、学年が上がるにつれて一人一人が自覚し、何をしないといけないのかを考えて行動できるようになってきます。こうした考えて行動するという力が現在の生徒には少し足りないように最近感じています。今後、社会に出ていく生徒を、しっかりと自立できるように導いていきたいと思っております。

教科指導では、商業科目の授業を受け持つております。商業科目の授業では、専門的な知識や技術を身に付け、多くの資格を取得することを目標に取り組んでおります。商業科目の場合は高校から勉強する生徒がほとんどです。すべての授業に興味・関心を持って取り組めるように工夫をしています。特に教科書だけで授業を行うのではなく、すべての科目で身近な話題や出来事などを取り入れて行っております。簿記の授業であれば、企業の粉飾決算はなぜ起こったのかなど生徒に疑問を投げかけ考えさせています。ビジネス社会は変化が激しく様々なものが変化していきます。その中で、実社会の現状を生徒が理解し考えていくことも重要になってきていると感じます。教員も常に新しい情報を入れ、それを活用していかないといけません。そのためには、普段から勉強や研修を重ねていくことが必要です。そこで学んだものを生徒に還元し、それが、社会に出ていった時の生徒の力になり、ビジネス社会で生き抜いていく力にもなってくると思っています。

最後に、教職課程を履修している学生さんは、この学生時代に様々なことを経験し、自分自身の視野を広げて欲しいと思います。生徒の個性が豊かになり、様々な個性を持った生徒がたくさんいます。その中で教鞭をとることは様々な体験や経験が大事になってきます。大学での講義や特別活動、実習体験などを通して多くのことを身に付け大変な職業である教職を目指して努力して欲しいと思います。私自身も今後も勉強を重ね、さらにより指導が行えるようにしていきたいと思っております。いつか、専修大学の後輩と同じ職場で頑張れたらうれしいです。



1. はじめに

私は、平成26年度採用（平成25年度実施）千葉県・千葉市公立学校教員採用選考に奇跡的に合格した者です。ここでは私が半年間で体験した、試験の準備や一次試験、二次試験の様子などをつらつらと書いていこうと思います。役に立たないと思ったらすぐにこのページだけを破いて紙飛行機にでもしてください。

2. 一次試験への準備

私が一次試験の準備を開始したのは試験の半年前、平成25年の1月上旬です。先に断っておきますが、この時期から勉強を始めるのは遅いです。遅すぎます。しかし、なぜそんな変な時期に勉強を始めたのかというと、その頃の私は就職が決まらなかったのです。もともと私は教員になる気はありませんでした。将来何かの役に立つかもしれないと思い、教職課程は履修していましたが、理想としては「どこか地方の市役所あたりで暮らしたいなあ」なんてことを考えていました。しかし、その後なんやかんやあり、新年が明けたある日突然教員を目指すことにしました。

教員になることを決めた次の日から、勉強漬けの日々が始まりました。幸い、その時期は卒業を待つだけだったので、勉強に充てる時間だけは十分に確保できました。さて、千葉県の試験科目も調べ、東京アカデミーから出ている参考書も揃え、やる気も満ち満ちていた私は、1月～3月中旬までは、教育原理やら教育法規などの教職教養を頭に詰め込む作業に没頭していました。そして、ある程度知識の基礎が出来上がった3月下旬から6月上旬までは、日がな一日ただひたすら過去問を解くという作業を行っていました。そんな勉強法にも飽き始めた6月中旬からは、一次試験の一か月前ということもあり、集団面接の準備をし始めました。具体的には、千葉県教育委員会のHPに掲載されている千葉県の教育方針や教育施策などを調べ、自分の回答の中にそれらしいニュアンスを含めた文章

を作り、本番で淀みなく答えることができるように練習していました。幸いにも私は友人とルームシェアをしていたため、この練習には事欠くことはなく、むしろ友人にダメだしをしてもらったおかげで、我ながら素晴らしい回答を用意することができたと思います。（試験を受ける自治体によってそれぞれ教育施策などは異なっているため、普段から自分の受ける自治体がどのような施策を行っているのか、どのような教育方針を掲げているのかは注目しておいた方がいいかと思います）

3. 二次試験の準備

二次試験対策は、一次試験の合格通知が届く一週間前から始めていたので、実質三週間ほどの期間で行いました。千葉県の二次試験内容は、個人面接と模擬授業でした。個人面接に関しては、集団面接で用意した回答に少し肉付けをしたのと、自分自身のことを掘り下げて考えた程度の準備で終わりました。しかし、苦労したのは模擬授業です。対策としては、教科指導、生活指導、道徳指導などどれでもいいので一日最低1つの模擬授業案を作成するという行っていました。その際も、友人を生徒や試験官に見立てて練習を行い、ダメ出しをしてもらいました。そんなこんなを繰り返して本番に挑んだ結果、特に目立った失敗もなく自分自身の力を全て出し切ることができ、幸運にも合格というおまけまで手に入れることができたのです。

4. 終わりに

最後に、これから準備を始める皆さんへ、勉強の合間に観た『ベスト・キッド』（'98）の中から、私が感銘を受けたミヤギの言葉を贈りたいと思います。

「学んだことの質を信じるのだ

量ではない」

これから皆さんにとって辛く険しい道が待っていると思いますが、弱い自分に負けずにゴールに向かって走り続けてください。心から応援しています。

1. はじめに

2013年10月1日、私は平成25年度実施神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験（中学校・英語）に合格することができました。この日まで、私は何度も迷い、壁にぶつかり、悩みながら教員になるための道を歩んできました。大学在学時には就職活動もしましたが、続けるうちに教育への想いが強くなり、教員になるための準備をし始めました。その結果、私立の高等学校から採用を頂きました。ここでは、高校1年生の担任を受け持っていました。高校生はある程度自分の責任で行動させることが多く、そこに至るまでの子ども達の力を育てたいと思い中学校教員を目指す決意をしました。そして、2012年4月から現在まで臨時的任用職員として、神奈川県の公立中学校で勤務しております。



2. 一次試験

平成25年度神奈川県公立学校教員採用試験から、臨時的任用職員経験者特別選考の試験資格が改定されました。この特別選考における試験資格の経験年数が「2年間に通算1年以上」となりました。ただし、翌年の5月1日現在も臨時的任用職員として任用されている事が条件となります。この特別選考で受験する場合には、一次試験の筆記試験（教科専門・一般教養、教職教養）が免除され、その代わりに個人面接Bを受験することになります。私は今年度この条件を満たした為、特別選考で受験しました。一次試験は論文（60分）と個人面接B（15分ほど）があり、論文は一般選考と同様に二次試験に当たるものを一次試験時に受験します。個人面接は、3対1の面接で志望理由やこれまでの臨時的任用職員としての経験、教職教養など全て含めて質問されます。

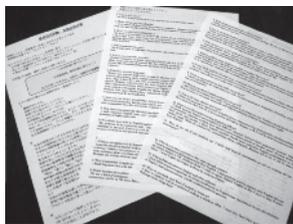
3. 二次試験

二次試験時に実技試験のある教科は、2日間行われます。1日目には、模擬授業・集団討議と個人面接Aがあります。模擬授業は、一次試験合格者に知らされるテーマに沿って、A4 1枚（英語科は裏面に英語版）の指導案を提出します。模擬授業では、その授業のポイントをおさえておくこと、視覚教材を

用意すること、生徒とのインタラクションを見せられるといいと思います。自己満足ではなく生徒が満足できる工夫を意識して準備してください。模擬授業後、与えられていたテーマに沿って集団討議があります。よく主導権を握れと聞きますが、必ずしも司会役になる必要はありません。私の場合には、自分の意見を発言しつつ、討論が滞ることのないように話題を提供することを心がけました。

個人面接Aは配点が最も高く、合否を左右するといっても過言ではありません。当日に自己アピール書を提出しますが、その内容の答えを用意しているだけでは絶対に不十分です。質問内容は、自分自身について（なぜ教職を目指したのか、今までの経験で学んだこと）、授業や学級経営について（授業/学級経営で大切にしたいこと、指導力向上に向けて取り組んでいること）、教育問題・事例対応（かながわ教育ビジョン、いじめや体罰、保護者連絡）、試験について（自分の模擬授業の反省点、他の先生方から学んだこと）などが主となります。

2日目は、実技試験として英語での口述試験があります。まず、渡されたカードに書かれている日本語5問をクラスルーム・イングリッシュに訳します。ポイントは、ジェスチャーを入れながら、生徒に通じやすい単語や言い回しをすることです。次に個人面接Aのような内容を英語で話します。私は個人面接Aで用意していた内容に英語科専門教養を加え、英語に訳したものを何度も練習しました。本番では決して上手く答えることは



できませんでした。面接官の目を見て自分の気持ちを伝えようという姿勢を崩さなかったことが、今回の合格に結びついたのでと思います。

4. おわりに

私から言えることは、日頃から「教育への想いや行動を具体的に描いておくこと」です。また、受験経験者から情報をたくさんもらってください。私自身、友人や同僚からの情報で準備や練習できたことが多くあります。ここに記したことが、これから採用試験に臨む皆さんの役に少しでもたてることを願っています。最後に、これまで支えてくださった先生方、友人、同僚に心より感謝いたします。

この度、私は平成26年度採用群馬県公立学校教員選考試験の中学社会で受験し、合格することができました。ここでは、私が教員採用試験に合格するまでの体験談や採用試験に向けての勉強をわずかですが紹介させていただきます。教職に就くことを目指す皆さんにとって少しでも参考になれば幸いです。

私の1、2年生の頃は、採用試験対策の勉強はまだ始めておらず、アルバイトやサークル活動など、一般学生と同じような生活を送っていました。当たり前ですが、単位だけは落とさないように学部や教職課程の授業はしっかり取り組んでいました。思い返すと、ここでの頑張りが、3年次以降に始めた教員採用試験対策の勉強時間に余裕を与えてくれたと思います。まず、1、2年生の皆さんには、1年間で履修する単位が多くて忙しく、大変でしょうが、ここで頑張ることが、後々、教員採用試験対策の勉強にあてる時間の余裕につながるの頑張ってもらいたいと思います。

私が本格的に採用試験対策の勉強を始めたのが3年生の春です。私は専修大学で開講されている教員採用試験対策講座を受講していました。ここでは、勉強する範囲が広い教職教養や一般教養などを効率的に勉強することができ、さらに、個人では対処しにくい面接や論作文対策も実施してくれます。また、教師を志す同じ年代の人たちが受講しているので、1人で勉強するよりも、意識高く学習に取り組めます。私自身、当時は教員採用試験対策の勉強はどこから手を付けて良いのかわかっていなかったの、この講座のおかげで教員採用試験のための勉強の方法を学び、そして、周囲からの刺激を受けながら勉強することができました。そのおかげで、私は力をつけることができたのだと思います。私のように、勉強の方法がわからない人や独学でできない人は検討してみると良いと思います。

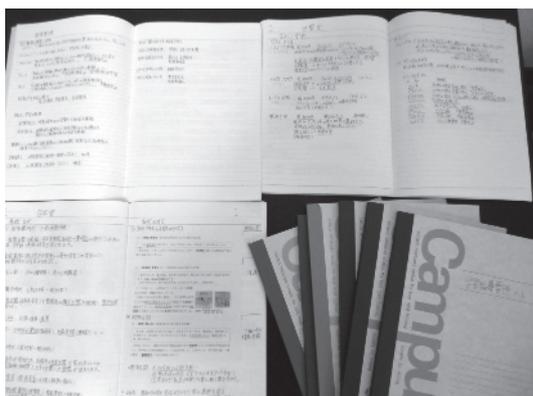
私の教員採用試験対策の勉強は講座だけではありません。教員採用試験といっても各自治体によって問題の傾向が異なるので、私の場合は群馬県の過去問を入手して、実際に解く練習をしていました。他の自治体は教職教養が一般教養より多めなのに対し、私が受け

る自治体は、一般教養の出題が教職教養より多かったの、講座で勉強する以上に一般教養を勉強しました。また、講座では、専門教養の対策は行わないので、各自で専門教養を勉強したり、出題傾向を把握したりする必要があります。効率よく勉強するには、まず出題傾向を知ることが大事ですので、早めに受ける自治体の過去問を入手し、出題傾向を知ると良いと思います。

教員採用試験対策の勉強は自治体によって異なりますが、一般教養、教職教養、専門教養、小論文、面接と、対策すべきことはたくさんあります。4年次から勉強を始めようとすると、教育実習もありますので、あまり対策に時間を割けないと思います。なので、最低でも3年生の間に対策を始めることをおすすめします。特に、長期休暇中は対策を進めるチャンスです。

最後に、私の試験に臨む心構えについて紹介して終わりにしようと思います。教員採用試験の受験者はとてもたくさんいます。その中で試験を受けるということは当然プレッシャーを感じます。私も感じました。そこで私の試験に臨む心構えは、「自分の持てる力を発揮する」ということでした。周囲の人たちがどのような人たちであれ、この場でやるべきは、自分の持てる力を十分に発揮することです。教職に対する思いや、今までの努力を思い返し、自分を信じて試験に臨むことで、自分の力を発揮できると思います。

少しでもですが私の体験を紹介させていただきました。皆さんも合格できるように頑張ってください。



学習に使用したノート

私が学校の先生になろうと思ったきっかけは、多くの皆さんと同じように、「素敵な先生に出会えたから」という、とても単純なものでした。

全ての教職の先生は、私たちが先生になることを全力で応援してくれます。

そして、私が体験したことがほかの人々の私立教員への思いの筋道になればと思っています。

私は、最初から私立学校の教員だけを目指していました。このことは、とても大きな選択だったと思いますが、私は私立学校で教育を受けてきて、先生になると考えたときに、真っ先に考えたことでした。よく、公立学校の教員に落ちてしまったから…と私立を考えられる方がいますが、それは間違っていると思います。



模擬授業のための指導案とプリント

最初に、どちらか考える、これが一番最初で一番大事な選択です。

私立学校の先生になろうと考え、最初に行ったことはどうしたらなるかということでした。周りの友だちに私立学校を視野にいれている子が居らず、相談相手などが居なかったのが非常に不安でした。しかし、私立教員を一括で受験できる場所はないのか、どこの学校が教員を募集しているかなど、たくさんの情報を集めました。

そして、見つけたのが、“私立学校教員採用説明会&選考会”というもの。これに参加することによって様々な学校と出会うことが出来、また校長先生や教頭先生などの先生に実際にお会いすることが出来るので、行ってみてください。

そして、いよいよ学校も決め、書類審査、試験、模擬授業、面接！実際の採用試験などは、自分に合った勉強法を既に見つけていたり、他の方々を書いてくださっていると思うので、私は、書類と面接について、自分の体験を書きます。

まず、書類ですが、先生になるための“就活”をしなければならないので、「どうして、教師になろうと思ったか」「自己PR」「教育ビジョン」など必ず考え、教職を担当して下さっている先生に見ていただくと、履歴書に書くときに使えるので早めに考えておくのをおすすめします。

次に模擬授業を行うこととなりますが、教材をしっかりと作っておくことで、自分の授業体系をPRする場所になると思います。教材研究、大切です！実際授業するとき、教育実習の経験を思い出してください。どこを改善すべきか、教わってきたことをここで生かしてください。

面接ですが、私の受けた学校では、一次面接ののちに、学校法人の役員面接がありました。

まず、最初の面接は、校長先生、教頭先生2名、教科主任の計4名の前での20分間の面接でした。

聞かれたこととして、「先生にいつからなろうと欲していたか?」「どんな先生になりたいか」「どんな生徒を育てたいか」「自分ができること」「どんな授業を展開して行こうと考えているか」…などということから始まり、「昨日の夕飯は何を食べたか」「水戸には何回訪れたことがあるか」という一瞬びっくりするようなことも聞かれます。

次の役員の方々との面接は、理事長、理事、校長先生…と計8名40分間行われました。

同様に聞かれたことは、「どうしてその大学に入ったのか」「大学で何を学んだのか」「大学生生活」「先生になったら、他の学校にどう差をつけるか?」や、「朝何時に家を出たか」「趣味は何か」…ときどき笑いの起きる場面もありました。

両方に言えることは、大きな声で元気に笑顔!!で相手に自分の考えを伝えることでした。面接対策は、非常に難しいと思います。しかし、先生になるという自分の意思を直接伝えられる場です。最後まで力を抜かず全力で取り組んでください。

最後に、教職の先生方、そして教職を目指す仲間たちに支えられながら、ここまで頑張ってくることができました。みなさんも、一人でかかえこまず、頼りながら教師の道に挑んでほしいと思います。



模擬授業の練習風景

1. はじめに

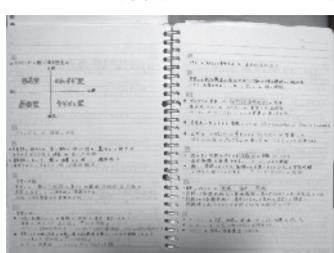
私は小学校教員になるために、玉川大学との連携による小学校教員養成プログラムを受けました。小学校の二種免許を取る通信の勉強をこなしながら採用試験の準備をし、平成25年度に実施された東京都教員採用試験（小学校）に合格しました。教員採用試験までに私がやってきたことをこの体験記に記します。これから教員を目指す方の参考になれば幸いです。

2. 一次試験への取り組み

私が本格的に採用試験の勉強を始めたのは試験を受ける年の1月です。通信教育の1年目のカリキュラムが終わったのがその頃だったためです。

まず、私は教職教養から取りかかりました。教職教養は俗に言う「暗記科目」です。主な参考書に書いてあることを全部覚えれば採用試験で7～8割とることは可能です。教職教養の勉強に必要なものは「気合い」でしょう。私は参考書を何十回も繰り返して勉強したり、暗記カードやスマートフォンの暗記勉強アプリなどを使いながら通学中などのちょっとした時間にも勉強するようにしました。教職教養は自分にあった勉強法で根気強く覚えていくことが大切だと思います。一通り教職教養を覚え終わると次は専門科目に取り掛かりました。専門科目についても参考書を買って、それを何回も何回も繰り返しました。

教員採用試験の勉強にとりかかるに当たり大切なことは自分が受験するところの出題傾向を把握しておくことです。過去問を解きどういった特徴があるのかを知っておくことで



試験勉強のノート

何を勉強すればいいのかが分かってきます。自分の受験する自治体に応じて、自分にあった勉強をすることが大切だと思います。

3. 二次試験への取り組み

二次試験は集団面接と個人面接が行われました。集団面接は単元指導計画のプレゼンテーションとそれを基にしたディスカッションだったためあらかじめ単元指導計画を作っていく必要がありました。現職の先生にもアドバイスをいただきながら1日ばかりで作成しました。一番大切なことは単元に自分のこだわりポイントを取り入れることだと思います。授業は先生にとってステージのようなものです。どういった演出を取り入れるかはそ

の先生次第です。そのため自分のこだわりポイントをつくることはとても大事なことだと思います。決して指導書などの既成の指導計画を真似ないようにしましょう。また、自分のこだわりポイントは面接で指導計画について聞かれたときに熱く語れる部分になると思います。また、2次試験も過去の傾向を確認し、どういった事をどのような形式で聞かれるのかを把握しておくことよと思います。

4. 一番の苦労

一番大変だったことは採用試験の勉強、通信の勉強、教育実習の両立です。教育実習中はほとんど勉強できませんでした。また、教育実習の1週間後には通信のテストがあり、そのテストの2週間後は採用試験でしたから教育実習終了後はバタバタでした。しかし、準備はしっかり整っていたのでそんな中でも自信を持って試験に臨むことができました。通信などの特別なケースでない場合でも教育実習の前までにはある程度の準備を完了し、「後は確認だけ！」くらいに仕上げられるように自分なりに逆算して対策を始めることが大切だと思います。

5. 先生を目指す後輩たちへ

先生を目指す皆さんに僭越ですが一言私の考えを述べさせていただきます。教員採用試験は非常に高い壁だと思います。生半可な気持ちでは受かることはできないでしょう。しかし、大学生の貴重な時間を採用試験の勉強だけで使うのはもったいないと思います。私は採用試験を受ける年である2013年の3月にインドを旅してきました。また、1次試験の合格発表の前の週にはフランスを旅してきました。私は先生になってから子どもたちに色々な話ができるように、大学に入学した頃から様々な国を訪れ、様々な物を見て、様々な経験をしてきました。その経験は実際に教壇に立った時にとっても貴重な教材になると思っています。皆さんも自由にたくさんの時間が使える大学生の間にたくさんの経験をしてみてください。どこかに行くとかでなくても大丈夫です。何でも大丈夫です。採用試験の勉強だけに縛られることなく、出来るときに色々トライしてみてください。きっと将来、その経験が自分の武器になりますよ。



インドにて

教育実習を行わせていただいた3週間では先生方の姿や子どもたちの姿から多くのことを学ぶことができました。

1. 教育実習前

教育実習の事前打ち合わせで教科担当の先生に「教育実習中はどのようなことに重点を置いて取り組みますか」と聞かれた際、私はうまく自分の気持ちを伝えることができませんでした。緊張していたのもそうですが、具体的に何を頑張りたいのか、ということが自分の中で定まっていなかったことが原因です。

何かに取り組む前に具体的な目標を決めておくことで、その取り組みがより有意義なものになるのは明らかです。そこで、事前打ち合わせから実習が始まるまでの間に、二つの目標を決めました。

- ・子どもや先生とできる限りコミュニケーションをとること。
- ・人の良いところをたくさん見つけ、今後の活動に活かすこと。

2. 教育実習中

私は、1年生のクラスで過ごさせていただくことになり、また、授業も、1年生の3クラスで行うことになりました。実習中に子どもたちと接して感じたことを書きます。

(1) 子どもたちについて

学年、クラスによって違った雰囲気を持ちつつも、みな(1~3年生)、とても元気で明るい子どもたちでした。休み時間には友達と楽しく過ごしたり、移動教室の最中に違うクラスの友達や先生と廊下で話をしたり、来校者に対して積極的に挨拶をしたり。これらは子どもが自発的に行っていることですが、日ごろ先生方が行っているからこそ、子どもたちも「当たり前だ」と思うことができるのかな、と思いました。

私が担当させていただいたクラスは、とりわけ元気で明るい雰囲気を持ったクラスでした。ただ明るいだけでなく、子どもたちがお互いにクラスメイトのことをよく見て、より前向きな気持ちで行事に取り組むにはどうすればよいか、どうすれば学校生活がより豊かなものになるか、ということについてリーダーを中心に全体で考えることができる、思いやりのある子どもばかりのクラスでした。

私はそんな子どもたちの姿から、人を思いやるとはどういうことなのかということ学びました。また、そんな子どもたちを陰で見つめ、見守っている先生方の心の温かさや強さを感じることもできました。

(2) 授業について

実習には、先生方の授業を見学する「授業見学」と実際に自分が授業をする「教壇実習」があります。

授業見学では、社会や英語、美術など自分の専門とは異なる授業も、また、全学年の授業を見学したこともあり、様々な伝え方、進め方があることを学び、先生方が一つの授業に何時間も考え、準備してから臨んでいることを改めて感じました。

教壇実習には、自分の今までの経験や授業見学で学んだこと、先生方からの助言を活かして一回一回の授業に臨むことができました。「ちょっと立ち止まって」という単元を扱いましたが、生徒の意見を授業に活かせなかったり、自分の勉強が十分でなかったりと課題が残る結果となりました。しかし、先生方からアドバイスをいただいたり、子どもたちから「こんな授業がいい」という意見をもらうことができ、人の温かさを実感する機会になったように思います。

3. 教育実習後

教育実習では、子どもたちの温かさや先生方の優しさにたくさん支えられました。また、実習後も体育祭などの行事を見に行ったり街中で会ったときに声をかけてくれる有馬中学校の皆様には感謝の気持ちとともに、いつか恩返しをしたいという気持ちでいっぱいです。子どもたちの考えや先生方の想いをたくさん聞いて、たくさんのことを学んだことは、一生の宝物です。



教育実習を終えて（英語）

岐阜県立大垣北高等学校 文学部英語英米文学科4年 安田 隆宏

教育実習を振り返ると、まさに多くの先生方や生徒の支えがあって、教育実習をすることができたと考えています。教育実習前は、しっかりと教育実習をすることができるかどうか疑問を持っていましたが、指導教諭の先生をはじめ、多くの先生方のご支援や生徒の協力があり、成長する機会を得させていただきました。

担当学年は1年生で、英語科は新学習指導要領を基に始まったこともあり、どのように授業をしていこうか、大変興味を持ちつつ1週間目のほとんどの時間は、英語科の先生の授業を拝聴し、学年によってどのように教え方の違いがあるか、学年やクラスごとの授業の組み立て方をつかんでいました。

「Communication English I」の教壇実習を通して先生方から学んだことは、教材研究や指導案の作成を通して、その授業でいったい何を生徒に一番伝えたいのか、分かってほしいのかを明確にして授業を行うことが重要だということです。あれもこれもと知識を教えるだけでは生徒のための真の授業にはならないということと、生徒の好奇心を刺激するような授業をして、その教科に興味や関心を持たせる授業を目指すべきだということを教わり、次の授業への方向性を考えるきっかけになりました。また、生徒に指示を出す場合でも言葉を発するだけでなく、全体を見渡して一言一句丁寧に明確に話すことで、生徒に、「今、何をするときなのか」ということを意識させることができるので、この部分のより良い方法を指導してくださいました。このような指示をすると、生徒はどう動くか、どう反応するかということについて教壇実習を通して体感をしました。先生方からのご講評は、自分では気づかない多面的な視点からの



ご助言をいただけるので、次の授業に生かそうと反省点を拝聴していました。先生方だけでなく、生徒にも自分の授業がどうだったかを尋ねることで、聴き手である生徒からの視点、授業の雰囲気をつかち合い、生徒とのコミュニケーションを大事にしました。教壇に立って授業をすると、自分では説明したと思っていたはずの指示が明確に伝わっていないことや指導案通りの時間配分でいかなかったことがあり、なぜそのようなことが起きてしまうのか、原因をつきとめて次につなげることは、より良い授業をしていくための糧になります。

学校行事や学級活動、部活動に生徒と共に取り組むことで、生徒が輝いている場面、瞬間を多面的に観察し、できているところや良いところを褒めて認めてあげることで、自己肯定感を感じさせる機会を与えることは、重要なことです。生徒のモチベーションを高め、様々な長所を肯定することは、生徒との信頼関係を築く礎になります。

教育実習生同士で支え合うことでも情報の共有をすることができ、精神的な面で大いに支えになったことは、学校として「チーム」で協働していくきっかけとして関係を深めていく経験の1つにもなりました。

学級日誌のコメントを記入することで、日々生徒が高校生活をどのように感じながら送っているのかを知るととても良い機会になるので、自分のことが忙しくても、励ましの言葉や今までの経験談など、メッセージを書き続けました。教壇実習のときの授業の感想や最終日の記載事項からは、生徒のあたたかい言葉が身にしみました。

先生方と協働することで、教師の仕事ぶりや生徒であった頃には気付かなかった部分が多く見えてくるので、貴重な経験ができ、感じ取ることができるのは、教育実習生という教師と生徒のちょうど良い間に位置しているからだと思います。学生で至らないことも多々あり、ご迷惑をおかけしたことも多かったですが、そんな中でもお世話になった先生や生徒には、大変感謝をしています。これから教育実習をなされる皆さんが充実した実習を送ることができるよう応援しています。

教育実習を終えて（地理歴史）

神奈川県立新栄高等学校 文学部人文・ジャーナリズム学科4年 齊藤 幸実

私は、5月下旬から3週間神奈川県立新栄高等学校で実習を行いました。

母校ではなかったため、まずは学校の雰囲気慣れることからのスタートでした。母校とはだいぶ雰囲気が違ったため、初めの1週間は戸惑うことばかりでした。

HR、教科指導共に3年生で、受験を控えた生徒たちを受け持つことへの責任感も強く感じました。HRは実習開始3日目から任せられました。生徒の出欠を取るだけで時間を使ってしまい、連絡事項が時間内に伝えられなかったことが最初の思い出です。初めの1週間は、様々な先生方の授業を見学させていただきました。授業見学では、まず自分が担当するクラスを中心に見学することをお勧めします。生徒観をつかむためです。そして、自分が教える教科に限定せず、様々な教科の授業を見ることも必要です。私は日本史を担当しましたが、授業見学では地理歴史の授業以外にも、数学や物理、生物、国語も見学させていただきました。先生方がどのような指導をしていて、どのような共通点・相違点があるのかを探していました。

教科指導は、私の準備不足により、生徒たちに多くの迷惑をかけてしまいました。50分という時間の中で、何度空回りしたかわからないほどです。初回の教科指導後は、指導教諭からも厳しい指導を受け、次回の授業が夢に出るほど怖かったのを今でも覚えています。それからは毎日教材研究のやり直し、指導教諭との模擬授業等、目まぐるしく動いていました。単元によって上手くいく日と、いかない日もありましたが、回数が増えていくうちに、生徒の目線からも授業を見ていくことができるようになっていきました。

最後の研究授業は、HR担当クラスでやらせてもらい、生徒たちも大変協力してくれました。管理職である校長先生をはじめ、多くの先生方が見に来てくださっていたので大変緊張しましたが、一番楽しめた授業でもありました。

行事としては体育祭があり、私も仕事をしながら、クラス対抗の全員リレーや大縄跳びに参加させてもらいました。全員リレーでは1位にもなり、生徒たちと抱き合って大喜びしてしまいました。体育祭を経て、生徒たちとの距離が近づいたように感じます。

3年生を担当していたので、卒業アルバムの写真撮影の待ち時間には自分の高校時代の話も生徒たちから聞かれたりと、母校ではないのに懐かしさも感じさせてもらいました。

実習生は、生徒たちとの距離がある意味近いです。「先生」ではなく、親しみやすい「先輩」に見られることが多いと思います。生徒たちとの距離感の保ち方は大変難しいです。決して「友達」になってはいけません。生徒である彼らに、何を伝えたいか、何を学んでほしいのかをよく考え、授業やHRに臨んでほしいと思います。また、教材研究はしっかり行ってください。教科によって異なりますが、地理や歴史であれば、多くの本を読んで知識を豊富に蓄えておくことが必須です。情報の整理は大変ですが、実習に行ったとき、必ず役に立つはずですよ。

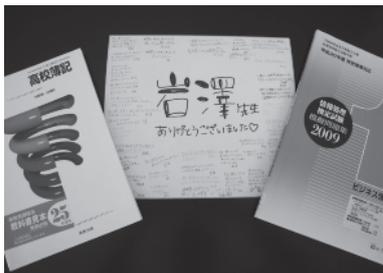
実習は苦しいこともたくさんあります。けれど、自分が真剣に生徒と向き合えば、生徒たちも何かしらの反応を返してくれます。「早く元の授業に戻ってほしい」と言われることも事実ですが、それは生徒たちにとっては当たり前のことです。ですが、諦めずに生徒たちのことを考えた授業を行ってほしいと思います。生徒たちから「今日の授業わかりやすかったです」「文化祭も卒業式も来てね」等の言葉をもたらしたときは、本当に泣きそうになりました。実習を、自分も生徒も有意義な時間とするために、強い気持ちと責任感をもって事前の準備を行ってください。そして、短い実習期間を楽しんでください。実習後、教員を目指したくなるのは本当でした。皆さんの実習が実りあるものになることを祈っています。

教育実習を終えて（商業）

私立松商学園高等学校 商学部マーケティング学科4年 岩澤 和正

1. 概要

私は、5月24日から6月7日の2週間、母校の松商学園高等学校で教育実習をさせていただきました。始めの4日間は授業参観を行い、担当科目以外の授業も見学して授業の流れを把握しました。そして5日目から教壇実習がスタートして、1日2～3科目を担当しました。その間も積極的に自分の足りない部分を補うために授業参観を行いました。教材研究は、昼休みや授業の空き時間を利用して行いました。



2. 教壇実習について

私が担当した教科は、1年生の簿記5時間、2年生の会計5時間、2～3年生の情報処理3時間、2年生のマーケティング1時間の計5科目14時間でした。初めての授業では、どの科目も板書だけでなく、実際に問題を解いてもらう時間を設けなくてはならないのですが、つい説明の方に時間をかけすぎてしまい、生徒に問題を解いてもらう前に時間がきてしまったり、生徒を指して解答してもらうのを忘れて解答を板書してしまうといったことがありました。また、全体を通して「声が小さい」「板書の字が小さすぎる」の2つを指導教諭から指摘されました。声の小ささについては、教材研究の不足による自信のなさからきていること、板書の文字については、できるだけ多くの情報を生徒に伝えたいという一心で板書したため、結果的に字が詰まったり潰れてしまったりして、生徒から見ると非常に見づらいものになってしまいました。そこで、指導教諭との綿密な打ち合わせと模擬授業によって自信のある堂々とした声で話す事ができ、できるだけ情報を集約したり図を用いたりして特に強調したい部分だけを板書することでとても見やすいものになりました。独りよがりの授業から生徒参加型の授業を目標に模造紙に表を書いたり、問題プリントを作成したり工夫して生徒の苦手意識を少しでも軽減す



るように努めました。今回の教壇実習で思ったことは、予定通りに終わらせることではなく、生徒がきちんと理解できたかどうか重要であるということです。始めは指導案通り終わらせなければならないという思いでしたが、結果的にそれは生徒の学習意欲を失う授業になってしまいました。その後、生徒が授業についていけているのか把握しながら授業を進めていくというような授業計画が必要であると考えようになり、常に生徒の学習意欲を高めていくことを第一に考える事が大切であると感じました。

3. HR 担任を通じて

実習2日目から1年生のHR担任を担当しましたが、38名の生徒の顔と名前を覚えるというのが最初の目標でした。私の場合、生徒一人一人の喋り方と関連付けながら少しずつ覚えて行きました。また、HRや清掃の時間でしか生徒とコミュニケーションを取る機会がなかったので積極的に話しかけたり、生徒達が記入する学級日誌や能率手帳を通して個別に対応したりと特定の人だけに偏らないように心掛けました。始めはお互いに緊張して話づらいといったことはありましたが、ある程度日が経つと生徒の方からも話しかけてくれたので、こうした積み重ねが教員と生徒との信頼の構築に繋がるということ学びました。



4. 教育実習を受ける皆さんへ

教育実習は皆さんが想像している以上に厳しいものです。どちらかといえば辛いことの方が多かったと思います。それでも、遅くまで指導して下さった指導教諭の先生やかつての恩師、自分と同じ実習生と互いに励まし合いながら2週間の実習を無事に終える事ができました。同時に何事にも代えがたい達成感が味わえると思います。ただ、皆さんに知っていただきたいのは、たとえ実習生であっても生徒からは「教師」として見られるということです。それだけ大きな責任を伴うこととなりますが、生徒の役に立ちたいという強い熱意があれば、充実した教育実習になることでしょう。是非、実際の教育現場の生の雰囲気や生徒達との交流を通して有意義な実習になるよう頑張ってください。

教育実習を終えて（情報）

埼玉県立狭山経済高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 平山 涼也

■はじめに

私は6月上旬から中旬にかけて、2週間ほど教育実習に行ってきました。実習校は埼玉県にある母校で、実家から自転車で15分程度のところでした。母校ということもあり、指導教員の方は3年間担任をさせていただいた先生で、私の担当もその先生が担任をしているクラスの生徒でした。徐々に担任の先生が作り出した学級文化に身を置くことができ、とても懐かしい気持ちになりました。

■教育現場に入るとのこと

実際に教育現場に入ってみて、一番新鮮なのは「職員室」です。自分が生徒であったときは滅多に入ることができない空間に身を置くことになり、私はとても不思議な気持ちでした。その職員室には生徒のときには知ることのない姿がありました。教材コピーの最中にコミュニケーションが生まれていたり、デスクで校務をこなしている先生がいたり、そこには学校という一つの「会社」が存在していました。会社で自分は一人の社員として働いていると思うと緊張感が高まり、常に気を張っていたように思えます。一人の社会人として意識を持っていても学生の甘さが出て、上司である指導教員の方から立ち居振る舞いを叱られたこともありました。

2週間（10日間）のうち8日間はSHRも担当をしました。私が実習中で苦労したものの一つです。SHRでは職員会議の内容を生徒に正確に伝達しなければなりません。とても責任の重い仕事で、いつも不安になっていました。生徒に信頼してもらうためにもしっかりとした大人の対応をしなければならぬと思うと、学生でまだまだ中身が子どもである私には十分にこなせていなかったと思います。社会人としての自分の未熟さと責任の重さを痛感させられました。



■教壇実習での心がけ

教壇実習を行うとはどういうことかという「ベテランの先生の価値がある授業時間を生徒から奪って、未熟な実習生が拙い授業を行う」ということです。私は「いかに生徒の時間を無駄なものにせず、有意義な時間にするか」を考えて授業を展開していました。

私は、学ぶ上で重要なのは「考えること」だと思っています。そのため、常に「生徒が主体的に考えられる授業」を心がけていました。ただ暗記していても、その暗記した内容を様々な場面で活かすための思考力が無ければ「生きる力」は育たないと感じているからです。しかし、実習校の目標は検定試験に受かることなので「詰め込み型授業」が多いので、学校の目標と自分の教育目標をいかに上手く組み込むかが私の授業デザインの課題でした。

そのような難しい環境の中での授業デザインを考えているときに参考にしたのは「パントマイム」でした。例えば、芸人が空中で手を添える行動を繰り返しているとします。そうすると観客は「この人は何をしているのだろう」と疑問に感じます。そして必死に自分の知識とその行動を結びつけて、「あ、壁に手を当てているのか」と納得でき、「面白い」と感じる事ができるのです。これこそが主体性だと感じた私は、生徒が「え？それはどういうこと？」と思えて、最後に納得感が得られる環境をデザインすることに重点を置いていました。つまらない用語などの説明も、主体的に考えられる環境を作れば生徒は面白いと感じてポジティブに知識を増やすことができ、学校と自分の目標を両方満たせることができると思いました。実際に、生徒から「分かりやすく楽しい」と言ってもらえたときは、努力の甲斐があったとうれしく思えた瞬間でもありました。

■最後に

教育実習生は能力を考えると、どう考えても現場ではお荷物でしかありません。しかし、教職に対して真剣に向き合っていけば、現場の人たちは、先生だけではなく生徒を含め、すべての人がその分協力をしてください。生徒と雑談を通じた交流をして、先生と教育について語り合っ、毎日を一生懸命、楽しく過ごせば必然的に充実した実習となります。後輩のみなさんが有意義な実習期間を過ごせることを願っています。

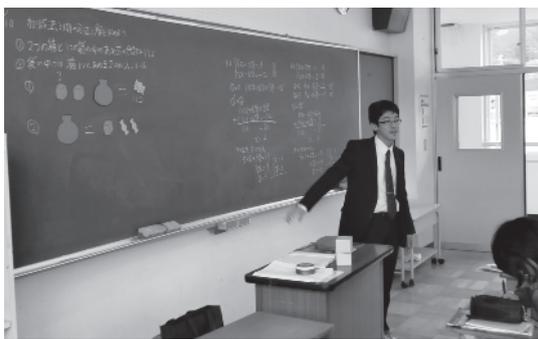
教育実習を終えて（数学）

松崎町立松崎中学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 土田 裕也

私は母校の静岡県松崎町立松崎中学校で教育実習に行ってきました。担当学年は2年生で、クラスは2年2組、授業は主に2年1組を担当させていただきました。

教壇実習は2週目から始まりましたが、授業を計画する際に私が心がけていたことがあります。授業中に演習する問題は全て自分で考えるということです。教科書の問題を使わなかった理由は、自分の計画した授業の流れに沿うように演習させてあげるには、演習問題も自分で計画するべきだと考えたためです。毎回授業のはじめに行う復習プリントも同様に、すでに習った内容を本時の内容に繋がられるような問題を作るように意識しました。時間が余ってしまった時のために問題は多めに用意しておいたのですが、実際は余るところか時間が足りなくなってしまうことが多かったです。何が原因だったのか考えたところ、私が今まで気付かなかった弱点がわかりました。

私は実習に行く前の心構えとして、毎回の反省点は次の授業には改善できるように努力しようと考えていました。しかし、どれだけ意識してもなかなか改善できなかったことがあります。



1つは時間配分です。ある課題に対して生徒たちに考える時間を与え、解決していくような授業を計画したのですが、思考の時間を切り上げるタイミングがわからず、長引かせてしまったことで演習時間が足りなくなっていました。事前に「考える時間は10分」と計画していたのですが、実際に授業をしてみると、できている生徒、できていない生徒、もう少しできそうな生徒など、進み具合がまちまちであり、切り上げるべきかどうか迷ってしまいました。その後の授業でも同じような失敗をしてしまい、せっかく作った問題に取り組む時間が確保できないことが多かったです。



もう1つは、時間が足りなくなってきたり、意図していなかった生徒の意見が出てきたりして、自分に余裕がなくなってくると喋りすぎてしまうということです。最初は順調に進んでも、生徒たちの発言で授業が展開できてきて、想定した流れから外れてしまった時に、最終的な到達点が見えなくなって、こちらで強引に流れを引き戻してしまうようなことがありました。ですが、理想的な授業は生徒が主役になれるような授業であり、生徒の発言を活かしてあげることが最も重要なことなので、本来の流れから逸れてしまっても、生徒たちの意見から展開できるような臨機応変な授業ができるとよい、と指導教諭からアドバイスをいただきました。以上の2点が、私が教壇実習をしてきて最も苦労した点であり、自分の弱点だと思いました。

生徒との関わりでは、生徒たちが積極的に話しかけてきてくれたりしたので、非常に充実した実習生活を送れました。生徒たちに助けられたおかげで3週間を乗り切ることができたと思っています。しかし、生徒たちと打ち解けていくにつれて、研究授業が近づいてきて忙しくなってきたために、関わる時間が減って行ってしまいました。せっかく打ち解けることができたのに、研究授業が終わるまではなかなか話ができなかったのも、それだけが唯一心残りです。

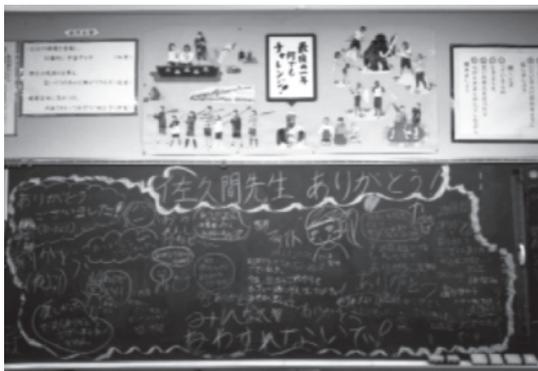
実習中は長い3週間だと思っていましたが、いざ最終日を迎えてみると非常に短い期間に感じました。私はこの実習で、自分の個性を出せるような授業づくりをしてきました。これから教育実習に行く皆さんには、授業を作る上でただ教科書を教えるだけのつまらない授業ではなく、「自分にしかできない授業」にこだわりを持ってほしいと思います。そのためには教材研究にかなり力を入れなければなりません、時間をかければかけるほど生徒たちは良い反応をしてくれます。ぜひ楽しい実習生活を過ごしてください。

教育実習を終えて（小学校）

旭市立飯岡小学校 法学部法律学科4年 佐久間 亜実

私は10月7日から2週間、母校である千葉県旭市飯岡小学校で教育実習を行いました。小学校の実習の前にすでに中学校での実習を行っていたため、実習の流れは分かっていたのですが、今回は実習生が私1人であったため、不安なところがありました。しかし、指導教諭の先生をはじめ校長先生や教頭先生、諸先生方がとても気さくに話しかけてくれました。また、わからないことや困ったことも相談にのってくださり、丁寧なご指導をいただきました。

実習1日目、全校集会での挨拶がありました。全校児童は240人程度で少ないですが、初めての経験であったためとても緊張しました。緊張しながらの短い挨拶を子どもたちは熱心に聞いてくれ、とても嬉しく良い経験となりました。実習の2週間はとにかくたくさんの児童と接することを目標にし、休み時間になれば外にでて1年生から6年生までの児童と遊び、たくさんのお話をしました。小学校は6年という期間なため各学年と接するとそれぞれの成長や発達を感じることができ、大学の講義や教科書では学べないことが2週間の実習で数多く学べました。



担当した学年は6年生で、研究授業も6年生で算数を行いました。小学生に授業を行うことは初めてであったため、授業の進め方や授業方法など、指導教諭の先生の授業を参考にしながら授業を作っていました。児童が理解するための発問の仕方や指示方法の仕方など様々な手立てを考え、学習指導案については何度も指導教諭に確認をしてもらいアドバイスをいただきました。その結果、研究授業は指導案通り進むことができました。児童たちともコミュニケーションがとれていたため、積極的に授業に参加してくれ、児童たちにも救われたと感じます。授業を行っての自分自身の反省としてあげることは、予想外の

答えがでたときの返答の仕方や、授業内容を理解し問題を解ける子と理解できていない子の差があるときの授業の進め方についてです。返答の仕方について



は、児童の答えを広げたりつなげたりできるように自分自身の知識を増やさなければならぬと思いました。授業の進め方については、理解できていない子に対して個別に支援したり、支援できるような教材を作るなど様々な工夫が必要であると分かりました。授業は生き物であるので、すべて授業案通りに進むことは難しく、すべてにおいて臨機応変に対応できる力を身につけなければならないと思いました。1時間の授業を作るにも多大な時間がかかるが、小学校の教員は毎時間授業をおこなっているため、改めて教員の仕事の大変さを実感しました。

2週間の実習中は授業だけでなく様々なところで教員の仕事を見ることができました。先生方は毎日のように授業のための教材研究を行い、それに加え行事等の準備、児童の問題やトラブルに対応し朝早くから夜遅くまで仕事をしていました。また、私が実習中台風が接近し学校が臨時休校した際も学校設備の点検や全教員での会議、プリントの作成など児童がいなくても普段と変わらない仕事の量を行っていました。今までは児童側からの教師の仕事のみをみても、実習を通して教師の仕事を実感できました。

実習を終えて、教師の大変さが分かった一方で教師のやりがいもわかりました。教えることに至ってはまだまだ力不足ではありますが、児童からの「ありがとう」や「楽しかった」などの声や手紙をいただき、心に残る経験となりました。また、これから教師という夢に向かい頑張っていこうと感じました。

これから実習に行く方々に伝えることは、楽しむことです。行く前は不安なことばかりだと思います。失敗を恐れずに何事にも挑戦という気持ちで一日一日を大切に過ごしてください。

はじめに

2010年度以降の入学生より必修となった教職実践演習の授業を受けて、授業内容や私を感じたこと等を記していきます。感想は私を感じたことであるので、もちろん他の受講生の方々は、私とは違った感想がたくさんあると思います。ですから、身近に教職実践演習を受講した先輩等がいる方は是非感想を聞いてみてください。

教職実践演習の模擬授業

ここでは私の履修した教職実践演習の授業で行った、約8人ひと組を1班とした(全4班)「総合的な学習の時間」の模擬授業について紹介しておきます。



各班で授業の展開を考え中

まず、各班で行ったことは「総合的な学習の時間」で生徒に何を教え何を学んでもらうのか、生徒を中学生または高校生どちらに想定するかということから始めました。私たちの班では、テーマを「将来について」とし「総合的な学習の時間」年間70時間の中で、職場体験や、色々な職業について知ってもらうために企業の人を招いて話をさせていただく時間というのも想定で設けました。対象学年は中学2年生で、2年生は進路を決める大切な時期なので、これからの進路選択に役立たせてほしいと思い、色々な職業について知る事を「総合的な学習の時間」で扱うことにしました。(他の班は「環境教育」等を行いました。)

「総合的な学習の時間」で何を扱うかを決めた後は、専門教科の模擬授業と一緒に、年間スケジュールを立て、70時間のうちどこを模擬授業に当てるのかを決め、指導案を作成し、授業の流れをロールプレイングしていきます。ここまでの流れも、もちろん8人でやるわけですから、毎回自分の意見が通るとは

限りません。「ああでもない、こうでもない」と話し合いを重ね、メンバーの考え方を聞いたことはとても参考になりプラスになりました。また、これから先8人の先生で授業をするということは無い事だと思つたのでとても新鮮でもありました。

そしていよいよ、1班ごとに模擬授業を行っていきます。残りの3班は各班が設定した学年の生徒になりきり模擬授業を受けます。教職実践演習の授業90分のうち、40分を模擬授業にあて、残りの50分は、模擬授業を行った班の良かった点悪かった点問題点等の反省を全班で行います。この50分間の反省がまた、自分たちのためになります。班で客観的に見られなかった事を、生徒役をした3班の方たちから「中学生相手ならもっとこういう風に説明した方が良かったんじゃない？」や「プリントはもっとこうの方が見やすかった」等々、授業をする側では見えなかった点を指摘してくれるので、先にも示したようにやはり有意義な授業だったと思います。

教育実践に学ぶ

模擬授業以外にも教職公開講座や専修大学教育学会への参加、実際の教育現場に授業や部活動の見学に行く学校訪問も行いました。公開講座や教育学会では現場にいる先生方に、今の教育現場や教育再生実行会議の課題等について講演をして頂き、学校訪問では教育実習とはまた違った視点から教育現場を見ることが出来ました。これらは全て教師を目指す私たちにとって為になることばかりです。

最後に～教職実践演習を受講しての感想～

1～3年生までの教職の授業では、まだ教師になるか分からないが念のために、と思い受講している人も少なくないかもしれません。しかし、4年生の後期に行う教職実践演習の授業では、教育実習や教員採用試験を終えた方たちがほとんどで、同じ志を持った人が多いこの授業は高いレベルで授業が出来ました。私は1年間やっても良いくらい貴重な授業だったと思っています。

これから教職実践演習を受講する皆さん、同じ志を持った者同士で切磋琢磨しあい有意義だったと思える授業にしてください。私も教職実践演習に限らず大学で学んだことを、これからの教員生活でしっかりと活かしていきます。同じ志を持つ者同士、お互い頑張ってくださいませ。

教育実践演習は、教員になるため教員として必要な知識技能を習得したことを確認するために今年度から行われている授業である。私は、嶺井正也先生の授業を履修したが、その内容は、教員を目指す私にとって大変有意義なものとなった。

通常の授業では、さまざまな教科を専攻する学生が集まり、私と同じ社会科免許取得を目指す学生の意見だけでなく、英語科、国語科等の免許取得を目指す学生の意見を聞くことができた。社会科の視点だけではなく、他の教科の視点からの意見が入るとまた異なった形の意見になることを実感した。また、私は私立専修大学附属高等学校で教育実習を行ったが、公立高等学校で発生した問題や課題、公立・私立中学校で発生した問題や課題などの意見交換やそれに対する議論も行い、さらには学校見学レポートの作成のため公立中学校を訪問したことを通して、中学校・高等学校双方の免許取得を望んでいる私には、教育実践演習を通して学んだことは今後、大きな力になると思った。



教育実習にて①

教育実践演習の授業内容は、模擬授業をはじめ、模擬授業で出た問題点や課題などを少人数グループに分かれて議論を行い、議論の内容を発表するなど、自らの意見を他者の意見と合わせ1つの答えを作るという自発性や協調性が養われる授業内容であった。また、模擬授業だけにとどまらず、教育学会や教職公開講座に参加し、そこでは、小学校から高等学校までの現職の先生方にお話を伺い、求められる教師像や、教師としての自覚、授業をどのように工夫して展開しているか、いじめや体罰にどう向き合うか、学校における若い教師の役割などについて自らの経験を基に講演やパネルディスカッションをいただいた。その後の授業の中でも、教育学会や教職公開講座で挙げた議題を取り上げ、議論を通じて追究をした。まずは自分たちで考え、現役の先生方の意見を聞き、そして、他者の意見を踏まえて自らの意見をまとめるという方式で行ったため、他者の意見を取り入れ、自分の意見を整理する時間が十分にあり、とても深くまで議題を追究することがで

きた。

この議題の中で、私が最も考えさせられた内容は、いじめの問題である。現在、いじめの問題が多く取り上げられているが、教師の立場でそれらにどのように対応すればいいのだろうか。私は、いじめ・体罰が発生する根源を断つこと。そのために生徒一人ひとりの学校での日常生活から把握することであると考えた。しかし、生徒一人ひとりを把握すると言ってもそれを実行することは極めて難しく、私の考えは漠然としていた。そこで、現職の先生のいじめの4層構造（いじめられる者、いじめられる者、傍観者、それを取り巻く環境）のお話を聞き、いじめをなくすには、傍観者やいじめを取り巻く環境の改善が必要であり、生活規律から生徒を正すということが必要であるということ認識し、より具体的ないじめ撲滅への取り組みから教師はどうあるべきかと考えさせられた。さらに、いじめについて、少人数で議論することによって、いじめには対応力・情報収集力が必要になってくる、地域の協力が必要である、もっと学級づくりに注力したほうがよいなど多くの意見を交わし合い、今後自らが教師となり、このような問題に直面した時は迅速に対応できるのではないかと実感した。

最後に、この教育実践演習の授業は、議論を通して自らの意見を持ち発することが重要であると考え、私は、議論の中でファシリテーターや発表者を進んで行った。しかし、議論を行っている中で「他人の意見を聞く」ということが最も重要であるのではないかと感じた。他人の意見を聞き、それをまとめ発表すること、つまり、多くの生徒の意見や気持ちを認識した上で、教師として教壇に立ち、生徒たちに何かを伝えていくことが最も重要であり、それが私の目指す教師像であるとともにいい学級づくりを行うための第一歩である。この授業を通して実感した。私は、現在小学校教諭を目指しているが、これは、小学校にも共通することだと思うので、教職実践演習で学んだことは今後も活かしていこうと思う。



教育実習にて②

言語活動の充実とソムリエの言葉

文学部兼任講師 山下 直

0. はじめに

新しい学習指導要領では、小中高いずれの総則にも言語活動の充実が明記されている。難しそうな言語活動であるが、意外にもソムリエの言葉と接点があるように感じている。

1. ワイン通は嫌われる

最近では、居酒屋にも数種類のワインを置くところが多いし、チリワインなどのように安価でおいしいワインがスーパーやコンビニにも並ぶようになってきた。ワイン好きの私には大変喜ばしいことである。

ただ、そうなると俄^{にわか}ワイン通が多く出回るわけで、そういう輩は、ブーケ、アロマ、アタック、アフター、ミネラル、タンニンなどのワインの専門用語を駆使して、蘊蓄^{うんちく}を長々と語り出す。挙げ句の果ては、「ねっ、このワイン、バターとバニラの香りするでしょ。これ、結構いいシャルドネだよ。」などと、こちらにはさっぱりわからない感覚を強要してきたりもする。かくして、ワイン通は皆から嫌われてしまうのである。

2. ワイン通の何が悪いのか

ところが、ワイン通の多くは、実は自分から語り出すことはあまりない。通常、「ねえ、これどんなワインなの？」みたいなことを聞かれ、それに応えるべく話し始めると長々と語ってしまうのである。だとすれば、ワイン通は自分の持っている知識を駆使して、ワインのおいしさを解説しようとしているまじめな人ということにもなるのか。

にもかかわらず嫌われてしまうのはなぜなのか。その答えはきわめて簡単で、その場にふさわしい語彙を選択していないからだ。ワインの専門用語は、ワインに興味のない人にとっては異世界の言葉である。したがって、そのような人にワインのおいしさを伝えるた

めには、専門用語を用いずに相手の語彙に合わせて語を選択しなければならない。にもかかわらず、ワイン通はワインの専門用語を用いてしまう。だから、嫌われるのである。

3. なぜ、普通の言葉で語れないのか

ワイン通は、なぜワインのおいしさを普通の言葉で語るができないのだろうか。それは俄仕込みだからである。優秀なソムリエは、ワインに詳しくない客に対しては、決してワインの専門用語は用いない。しかも、それでいてワインの味の特徴をわかりやすく説明してくれる。この違いは何なのか。

それは、ワインの専門用語に対する理解の深さにほかならない。例えば「ミネラル」と言えば、ワインに詳しい人にはその意味がすぐにわかるが、そうでない人には何のことかわからない。それを「ミネラルウォーターの硬水を口に含んだときに感じる、あの感じですよ」と言い換えることができれば、ワインを知らない人にもわかりやすくなる。

俄ワイン通は、この言い換えができないのである。しかも、それは理解不足のために言い換えられないだけでなく、ワインの専門用語を用いることがその場にふさわしくないという感覚を持ち合わせていないことにも因ると思われる。

4. 言葉の教育の視点から

さて、そろそろ言語活動のことにも触れていこう。言語活動の充実とは、国語を含む全ての教科で言葉の教育をするという考えに基づいている。そうすると、国語で育てる言葉の力と国語以外の教科で育てる言葉の力とは、どう違うのかという疑問が出てこよう。

この疑問の答えを探る手がかりが、ワイン通が嫌われる理由にある。ワイン通が嫌われる理由の一つに、ワインの専門用語に対する

理解が十分でないというのがあった。これは国語科以外の教科で育てる言葉の力に関わることである。各教科には、それぞれの教科の専門用語があるはずだ。その用語をただ言葉として知っているだけでは、俄ワイン通と変わらないことになってしまう。その教科のことに詳しくない人にも興味を持ってもらえるようにするためには、わかりやすく言い換えられなければならない。そして、その言い換えができるようになるためには、その言葉がその教科のどのような概念を表しているのかを深く理解していなければならないのである。我々は各教科の優秀なソムリエを育てなければならないのである。

5. 優秀なソムリエになるには

では、どうすれば優秀なソムリエになれるのか。その答えは「体験する」である。ソムリエはさまざまなワインを味わうことはもちろんのこと、いろいろな場面で香りや味を記憶し自分の言葉で頭の中の引き出しに整理する。そして、どの引き出しに何を整理したのかをしっかりと記憶しておく。この体験を蓄積していく中で、味わいをわかりやすく表現する語彙を自分の中に構築していく。言葉と体験の両輪がソムリエを成長させるのである。

言語活動の充実も、このソムリエの体験と変わりはない。教科の言葉に対する認識を深めるには、それにふさわしい体験をさせなければならない。体験を通して身に付けた言葉は、真の意味での自分の言葉として活用することができるようになるし、しっかりとした言葉で語られる体験には説得力がある。

6. 国語科で育てる言葉の力ーまとめに代えて

ここまで、国語科以外の教科で育てる言葉の力について触れてきたが、最後に、国語科

で育てる言葉の力についても触れておきたい。それは、俄ワイン通が嫌われるもう一つの理由、ワインの専門用語がその場に適さないことに気付かないことと深く関わっている。言語活動を通して、その教科の言葉を身に付けたとしても、それらを適切な場で適切に用いることができなければ、円滑なコミュニケーションはできない。優秀なソムリエは、客に合わせて言葉を選ぶことができる。客がワイン通ならワインの専門用語を交えて説明するし、そうでなければわかりやすく言い換える。つまり、場や相手に応じて言葉を選んでいくわけである。

このような判断力を身に付けるのは、それほど簡単なことではない。国語科で育てる言葉の力はさまざまあるが、このような判断力の育成は国語科が担う重要な言葉の力の一つであろう。

言葉の力は国語科だけで育てるのではないことがわかっていただけたらだろうか。言葉の力は、国語科を中核としながらも、全教科を通して確実に身に付けていかなければならない。そのためにも各教科での言語活動の充実が、非常に重要になってくるのである。



介護等の体験を終えて

法学部法律学科3年 望月 恭介

私は6月に特別支援学校、8月に社会福祉施設へ介護等体験へ行ってきました。

行く前には、どうしてこんなことをしなくてはいけないんだなどと考え、モチベーションも高いとはいえないという状態で介護等体験に臨みました。

6月。ついに特別支援学校へ行く日がやってきました。私は特別支援学校という施設に行くことが初めてで、始めは本当に不安でした。しかし学校についてみると、廊下ですれ違った時には子どもたちが元気にあいさつをしてくれて、先生に話しかけてくれる子どもたちもいて、不安はなくなりました。

私が特別支援学校へ行った日はスポーツテストを行っていた日でした。その時に子どもたちと先生方が力を合わせながらスポーツテストを行っている光景を見ることができました。さらに、実習生である私たちにも先生方が役割を与えてくださったり、子どもたちとたくさん関わることで本当にうれしかったです。給食の時間も、教室に行くと子どもたちが挨拶をしてくれて、自己紹介や趣味のことを話してくれた子どもたちがいて本当に楽しかったです。

午後は作業学習を行い、私は食品加工班の担当になりました。本物の食品加工工場のような雰囲気です。授業をしていて、特別支援学校ではこのようなことをやっているのかということを知ることができました。その後の帰りの会では担当のクラスへ行き挨拶をしたのですが「特別支援学校でやるお祭りに来

てください」という子どもたちの言葉を聞き、特別支援学校へ来て本当によかったと、そして改めて教師という職業の素晴らしさを知ることができました。

8月には社会福祉施設へ行きました。私が行かせていただいた施設は肢体不自由の方々に通所されている施設でした。

介護等体験が始まって1日目、2日目は自分が何をすればいいのかもわからず、言われたことしかできないような状態でした。そして、そんな状態にいる自分に本当にいらだちを感じました。3日目からはだんだん慣れてきて、自分がどんな行動をすればいいのか、そしてそのためには何が大事であるかということを考えながら行動することを意識しました。私が大事だと思ったことは「周りを見る」ということです。この方は次はこういう行動をするから自分はこうしよう、一方、別の方はこういう行動をするから自分はこうしよう、ということを考えてできるだけ「一つのこと集中しすぎない」ということを意識しました。

また私が介護等体験を通して学んだ一番大きなことは「言葉でないコミュニケーションがある」ということです。言葉では意思疎通をすることが難しい方がいらっしゃいました。しかし音を鳴らすことでその方が笑顔になってくれたということがありました。これは私の思い上がりかもしれないですが、その人の心に何かが届いたのではないかと思います。

毎日の反省会でも施設の方に本当にたくさんのご指導をさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

最終日にはみなさんに楽器の演奏も行いました。職員の方が利用者の方が喜んでいただけてくださって本当にうれしかったです。

私はこの介護等体験を通じて本当にたくさんの方のことを学ぶことができました。これから行くみなさんにも積極的に行動してたくさんの方のことを学んでほしいと思います。



今回、私は初めて教育学会に参加させてもらいました。そしてまず、会場の雰囲気は驚きました。いつもの教職の授業などは学生が多いので、比較的賑やかな雰囲気です。しかしこの教育学会は、実際の現場で働かされている教員の方々の集まりであり、それぞれがそれぞれの熱意をもってこの会に参加されているのが伝わってくるような、とても真剣な雰囲気でした。普段の授業に参加するだけでは味わうことのできない雰囲気がそこにはありました。

学会自体は、講演会があり、そののちにパネルディスカッションという形でした。パネルディスカッションの今回のテーマは、「学校でのいじめや体罰にどう向き合うか、問われている教師の役割」、「教師の世代交代のもとでの若い教師の役割」の2つでした。この2つテーマは、これから教員になろうとしている私にとっては非常に興味深いものであり、とても参考になるものでした。その中でも私の中で特に印象に残った話が2つあります。

1つめは、埼玉県立大宮商業高等学校長の中林幹夫先生のお話です。1つめのテーマであるいじめ問題について、中林先生は「自助」「共助」という考えをお話してくださいました。自助とは自分自身で生きる力を身につけることであり、共助とは子供同士の絆をむすび、助け合うためのネットワークをつくるということだそうです。この自助と共助を育てることによって、いじめを子供たちだけで解決させることが狙いだとおっしゃっていました。確かに、私が見たり聞いたりしてきた経験上、親や先生が介入してきたいじめ問題は、表面上は解決しても裏ではまだ続いているということが多かったような気がします。私もいじめ問題を考えたときに、子どもたちだけで解決できることはとても望ましい形だと思っていたのですが、自分ではどうした

らいいのかさっぱりわかりませんでした。しかし、今回中林先生のお話をきいて、教員としてそういう力を身につけさせてあげることが大事なのだなとすごく共感しました。ですから、この考えを忘れずにおいて、いざ自分が教員になったときに実践していきたいなと感じました。

2つめは、若い教師の役割についてのお話です。どの先生も共通しておっしゃっていたのは、一人で頑張りすぎないということでした。様々な問題が起きると予測できる教育現場だからこそ、私は不安がたくさんありました。しかし、一人で問題を抱え込むということは、後々大きな問題に発展してしまう可能性があるため、先生同士で情報共有することが大事だという話を聞き、一人で頑張りすぎないことも大事なことなのだなと思いました。そして、ベテランの先生方に様々なことを教えてもらう代わりに、その教えてもらったことを今度は自分たちが次世代に繋いでいくことができるかがまた重要になってくるともおっしゃられていました。以上のことより、教員はなによりも教員同士の連携を取っていくことが重要になるのだなととても強く感じました。

今回は特に印象に残った話を取り上げましたが、他の話も教員を目指すにあたりとてもためになる話ばかりでした。4年になった今ではもうすでに遅いですが、もっと早くに参加しておけばよかったというのが正直な感想です。教員を目指す後輩の皆さんには、ぜひ教育実習に行く前に1回でも参加してほしいと思います。やはり普段の授業とは違った緊張感漂う雰囲気の中、現場の声を直接聞ける機会なんてものはそうそうないし、自分が悩んでいることが解決するような話が聞けるかもしれません。私も今回聞いた話を頭において、これからも教員になるべく頑張っていきたいと思います。

私は、平成 25 年 10 月から平成 26 年 1 月まで、神奈川県立座間総合高等学校で、教科研修生として英語科の授業に参加させていただきました。担当して下さった先生のご配慮のおかげで、担当の先生の授業だけでなく、他の英語科の先生方の授業も参加、見学させてもらいました。

私が教科研修生を申し込んだきっかけは、4 年次の教育実習だけでは将来教壇に立つ上で経験が足りないと感じたことと、平成 21 年に改訂された学習指導要領において、「高等学校の授業は英語で行うことを基本とする」という内容が追加され、現在の教育現場ではどのような授業がなされているのを知りたいと思ったからです。その時にこの教科研修生の存在を知り、「このような機会を無駄にしたくない。」と思い、申し込みに至りました。



ある日の授業風景

実際に教科研修が始まり、様々な授業を見学させてもらいました。座間総合高等学校は、学校名の通り総合学科の高校であるため、コミュニケーション英語や英語表現などの基礎科目の他に、英語の正しい発音を学ぶ LL 基礎という授業やプレゼンテーションの授業など、授業の種類が多岐にわたっていました。LL 基礎の授業を見学させてもらったことがありましたが、生徒が一人一台パソコンを使い、日本人の先生が 2 名、ALT (Assistant Language Teacher の略) の先生が 1 名によって授業が進められ、ALT の先生の発音を聞きながら生徒が発音したり、自分の声を録音して聞いてみたりする授業内容でした。設備や環境が整っているからこそ出来る授業であり、今の高校生が羨まし

いと思いました。

もちろん基礎科目の授業も見学させてもらいました。それぞれの先生が、それぞれの授業のスタイルを持っており、同じ科目の授業を見ていても全然違うと感じ、とても新鮮でした。また、新出単語の覚え方から教科書の本文の内容の説明、文法事項の説明、板書や配布プリントの構成、声の使い方、表情など、細かいところまで配慮がなされていたので、感動するとともに、参考にしたいと思う点がいくつもありました。更に、どの先生方も生徒との距離が近いという印象を受けました。例えば、生徒が授業中に分からないことがあったらその場で先生に質問をして、先生が解説をするという光景を何回か見ました。人前で質問をすることは、多少なりとも勇気がいることだと思います。しかし、座間総合高等学校の生徒は、積極的に質問をしていました。先生と生徒の信頼関係があるからこそ、このようなことが出来ると感じました。また、先生と生徒が休み時間にすれ違った際も、あいさつだけでなく、「髪切った?」「具合悪そうだけど大丈夫?」など、日常的な会話まで聞こえてきました。先生と生徒としての礼儀はきちんと守りつつ、良い意味で友達のような関係が築かれていて、私もこのような教師になりたいと思いました。

そして私事ではありますが、教科研修中に、私の母校の部活動でお世話になった先生と再会しました。その時に教員採用試験の話をしたのですが、私が「何かアドバイスはありますか?」と尋ねたところ、「教採は勉強すれば受かる。勉強しなければ受からない。」と言われました。当たり前のことですが、とても重みのある言葉だと感じ、やる気を頂きました。また、専修大学 OB (更に、私と同じゼミナールの出身) の英語科の先生ともお会いする機会があり、世間の狭さを感じた次第であります。

私にとってこの教科研修生の制度は、大学の授業ではなかなか学ぶことの出来ない経験をさせて頂き、より教師という仕事に魅力を感じた貴重な場となりました。座間総合高等学校の先生方、この制度に携わる全ての方々に、この場をお借りして感謝を申し上げます。有難うございました。

はじめに

私は、10月上旬から、毎週木曜日の午後川崎市立榊形中学校でボランティアを行っています。私は教員を目指しているものの、現場での経験がとりわけなく、教員となり現場に出た際の振る舞いや生徒との接し方などを学びたいと考え、ボランティアへの参加を希望しました。また、同時期に受験していた教員採用試験において、講師経験のある受験者との知識や考えの差を体感したことも参加するきっかけとなりました。

ボランティアの活動内容

私は、主に、普通級において授業補助を行っています。具体的には、授業中に落ち着きのない子や学習進度の遅い子について、個別に支援を行います。普通級においても、個別に支援を欲している生徒は多くいます。そのような生徒の支援、かつ、先生方のサポートを行うことで、授業を円滑に進めるための補助に徹しています。

放課後は部活動に参加しています。顧問の先生だけでは目の行き届かない所をサポートし、時には生徒と同じメニューをこなして、生徒と同じ目線で物事を捉えられるように意識して取り組んでいます。

学校教育ボランティアを通して

私は、ボランティアを行って、改めて学んだことが大きく2つあります。

1つ目は、教員は教科のスペシャリストであることは言うまでもなく、全力で生徒と向き合い、指導を行える人間でなければならないということです。そんなことは当たり前だと思われる

でしょう。現場では毎日大小数え切れないほどの事件が発生しています。それらを解決し、多感な時期にいる生徒たちを正しい方向へ導くという行為には多くの体力



放課後希望者が集まって行う「学習会」で生徒に助言

や時間が費やされています。それらを惜しまず生徒に向かっていくことのできる人間こそ、現在の教育現場に求められている人材であり、教員のあるべき姿勢であると感じました。生徒に正面からの確かな対応をする教員の姿勢や様子を生で見ると感じられるという経験は、座学で得られるものとは全く異なります。私はこのボランティアにおいて、教育実習や大学の授業では経験できなかった生徒指導を体験しています。現場で起こる様々な事件に全力で対応する先生方の指導方法を参考に、自分が同じような場面に遭遇した場合、どのように対応しようかと考えるきっかけにもなっています。

2つ目は、生徒の特徴を個性として捉える発想です。授業や学校生活を共にして様々な生徒と接します。多動性のある生徒や多くの発言をする生徒、叱られてもすぐに機嫌を取り戻す生徒、教員とあまり交流を持つとしない生徒など、まさに十人十色という言葉がぴったりです。その個性を、教員である私たちが「～でなければならない」「～べきだ」という言葉や行動で潰してしまうべきではないという言葉のある先生から頂きました。性格の他に多動性などの発達障害を個性として捉えるという認識が私にはなく、大きな衝撃を受けました。その言葉を頂き、どのような生徒も個性として受け入れたいと考えるようになりました。授業中に立ち歩く生徒には、そのような個性を持った生徒なのだという捉え方をして臨めるようになり、それ以降は、私の着席を促す指示をすんなりと受け入れてくれることが増えました。私の考えの変化が生徒に伝わったのかもしれませんが。

おわりに

私は、ボランティアを行って、自分では知らなかった自分に気づかされました。現場に出て体験することで自ずと気づいた弱い部分や、生徒に指摘されて自覚した癖など多々あります。教員として現場に出る前に、知らなかった自分を知ることができ、現在、改善やスキルアップに励むことができています。また、生徒からの何気ない言葉や笑顔にとても元気を貰い、より一層「教員になるんだ」という思いを強くしています。

現場に一步踏み出してみると、様々な出会いがあるかと思えます。生徒や先輩教員、そして、新たな自分とも出会えるかもしれません。

1. はじめに

私は、平成21年4月、専修大学附属高等学校に英語科の教員として奉職しました。私が行っている授業実践としては、「協同学習」「学びの共同体」の考えに基づきグループ学習を取り入れた授業展開や、毎時間の授業の最後に行う「振り返りシート」(学習にどれだけ参加できたか、単元をどれだけ理解できたかを自己評価し、質問事項なども記入できる用紙)の利用による個々の生徒とのやりとりなどが挙げられます。紙面の関係上、授業実践についての具体的な紹介は割愛し、今回は教員になる上で持つべき意識について、私の思うところを述べさせていただきます。

2. 「生徒のために」を考えること

「生徒にとって一番良いと思うクラス経営・授業を自由に行うこと。ただし、その時、その場で起こることは全てその担当教諭の責任である。」

これは、私の母校である、とある公立高等学校の教職員が共通して持っている教育理念です。教職に就いて数年、ふとしたきっかけで私はこの言葉に出会い、それから私の心はこの思想に強く打ち抜かれています。

つまり、クラス経営、授業、クラブ活動その他の時間で生徒に何を伝え、どのような学びを促すかは個々の教員の自由であるということであり、同時に、その実践の結果、目の前で起こる現象は全てその担当教員が「種」となっているということです。極端な表現の仕方をすれば、生徒が「勉強しない」「言うことを聞かない」「自主性を欠いている」ように見えたとき、それは、我々教員が「勉強する環境を作っていない」「言うことを聞くような伝え方をしていない」「自主性を育む場を与えていない」のです。

生徒のことを考えた実践を行う裏にはそれだけの責任がある。このことを常に念頭に置いて、教員は、どれだけキャリアを積んでも学び続け、自己変革し続けるべきだと考えています。時代や環境によって、生徒の質は大きく変化しているのです。

3. 「生き様」を見せること

上述したこととも関係することですが、教員として生徒と関わる時、生徒がどのようになることを望むのか、何を学び、何を身に付けてほしいのかといった「想い」を彼らに示すこととなります。しかし、そういった教員のメッセージに触れるのと同時に、生徒たちは、教員自身のちょっとした振る舞いや無意識に見せる表情、態度などを見て多くのことを学んでいるように感じます(いわゆる「隠れたカリキュラム」の一つかもしれません)。

このことを受け、人に見られているからと無理に教員としての振る舞い方を変えるべきだとは思いません。生徒は教員の様々な側面を見て学んでいるという認識を持ちつつ、自らの「生き様」を素直に生徒に示すことが肝要なのではないでしょうか。そこで生じる自由な学びが生徒に深く響き、彼らの心に残るような気がします。

4. おわりに

以上、教職を志す皆さんに向け、是非考えてほしいことを述べさせていただきました。私自身、至らぬことも多く失敗の連続で現在まで続いています。ここで記したことを理念として現場に立っています。これから一つの答え(模範解答)が存在しない教育現場に立とうとしている皆さんが、常に自己研鑽を重ね、各所で大いに活躍されることを切に願っています。



グループ学習の様子

司書・司書教諭課程



さまざまな立場にある図書館利用者について学ぶ授業

文学部兼任講師 成松 一郎

1. 図書館を利用しづらい人（潜在的な利用者）にスポットを当てる

私が司書課程で担当している科目は「図書館サービス特論」（旧カリキュラムでは、「資料特論」）ですが、さらにわかりやすく言うと、「読者（利用者）論」をやる授業です。

当たり前の話ですが、本を読む人、必要な情報を調べる人など図書館を利用する人がいて、初めて図書館は成り立ちます。ところが古くから「実際に図書館を利用できている人＝利用者」という図式ができあがっていて、図書館を利用しない人は、もともと読書や調べ物に関心が無いのだろうと思われていました。

しかし、本当にそうなのでしょう？ じつは、利用したいと思っているけれど、図書館に行く時間が無いとか、家が遠く離れていて、出かけていくのがとても大変であるという人もいます。

また、仮に図書館に行けたとしても、所蔵している本が「読めない」あるいは「読みにくい」という立場の利用者の場合、かつてはその人自身が問題をかかえているのだから、「図書館利用はむずかしいですね。せっかく図書館に来てもらっても、なにもサービスすることができないので、あきらめてください」と言われた時代が長くあったのです。

しかし、日本でも1970年代にはすでに「図書館利用に障害のある人へのサービス」という言葉が生まれ、利用できない・利用しにくいのは、利用者特有の問題ではなく、じつは「図書館のほうにこそ“障害”があるのだ」という考え方が、おもに障害当事者の側から提唱され、現在に至っているのです。

そこで私の授業では、現在、図書館を利用していない、あるいは利用しにくい状況や立場にある人、つまり潜在的な利用者の姿を一つひとつ明らかにしたうえで、図書館側がどのようにバリアを低くするくふうをしているのかについて、考えていきます。

2. 潜在的な利用者とはどんな人たちなのか

それでは、潜在的な利用者とはどのような立場にある人たちなのでしょう。

私の授業では、「利用者の特性やニーズを知る」という観点から、つぎのような読者のことを扱います。

①「読める」を求める読者

たとえば、「目が見えない私にとって、紙に

印刷された本は単なる紙の束にすぎない」と言った全盲の視覚障害者がいます。

しかし、仮に視覚が使えなくても、他の感覚（触覚や聴覚など）を活用して読書を行うことが可能です。

②「読みやすさ」を求める読者

視覚障害者の約8割は「ロービジョン」とよばれる人たちです。ロービジョンの読者は、文字サイズを拡大したり、読みやすい書体に変更したり、読みやすいレイアウトや配色に変更することによって、じゅうぶん読書できる人たちが数多くいます。

ただし、ロービジョンの人は、その人の目の状態によって、「読みやすさ」が異なりますので、じゅうぶんコミュニケーションを図りながら、サポートする必要があります。

また、最近では、「読み書き障害（ディスレクシア）」の研究が進み、サポート方法もいろいろと開発されてきました。

③「母語による読書」を求める読者

生まれつき、あるいは小さい時に聴覚障害になった人の中で、手話を母語（第一言語）にしている人（ネイティブ・サイナー）がいます。彼らの中には、日本語の読み書きが、まるで外国語のように苦手になっている人が少なからずいますので、手話による内容解説を必要とする場合があります。

あるいは外国とつながりのある人にとって、母語による情報入手が必要な場合がありますし、移民の子どもに対する母語教育や多言語教育の場として、図書館を機能させていく可能性があると思います。

④「わかりやすさ」を求める読者

知的障害のある人が子どもから大人に成長していくにつれて、知的な年齢と生活年齢との間のギャップが大きくなっていきます。

わかりやすいからといって、いつまでも子ども向けの本では満足することができません。年齢とともに、性や恋愛・結婚について、金銭管理や料理・洗濯など日常生活のこと、あるいは法律や社会のしくみなど、さまざまな興味がわいてきますが、それをわかりやすく説明している本や、読みがながたくさんつけられている本は、まだ種類が少ないのが現状なのです。

これは、知的障害の人だけにとどまらず、ネイティブ・サイナーの人、外国とつながりのある人にも共通のテーマだと思います。

欧米では、古くから「LLブック」（スウェ

ーデン語の lättläst の略。lättläst とは「読みやすい」という意味)が出版されていますが、日本ではまだこれからの分野です。

ただ、日本で発達しているメディアの一つにマンガがありますが、これは「わかりやすさ」を求める読者にとっては有効だと言われています。

⑤「マイノリティ（タニマー）としての情報」を求める読者

世の中には「難病」と呼ばれる原因不明の病気が数多くあります。ところが、「何万人に一人」といった病気の場合、対象者が少ないため、なかなかまとまった情報が少ないのが現状です。昨年出版されてベストセラーになった『困ってるひと』（大野更紗著 ポプラ社）は、このへんの事情がわかりやすく書かれています。大野さんたちを中心に、「タニマー」（制度の谷間に陥りやすい人たちを指す）からの情報発信の場がインターネットなどを活用しながら徐々に増えてきています。*

また、アスペルガー症候群や ADHD（注意欠如多動性障害）などの発達障害、これは障害ではありませんが、LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー）や性分化疾患などセクシャルマイノリティに関する情報なども、社会の偏見が根深く存在する世の中にあって、本当は切実に情報を欲しているにもかかわらず、実際には利用されにくい・利用されていない現状があると思います。

3. 「障害当事者」や「サポート実践者」の生の声を聞く

私の授業では、各方面で活躍中の障害当事者（写真 1・2）、あるいは、障害のある人を対象にしたサポート事業を続けている人（写真 3）に、何人がゲストスピーカーとして教室までお越しいただき、「どんなことに困っているのか」「どのようなサポートを求めているのか」「サポート事業をどのように継続させているのか」といった話をしてもらっています。

もちろん、都合があわない方もいらっしゃいますので、動画を活用する方法も使っています。

4. まず「知ること」から始まる

学生にはできるだけリアクションペーパーに感想や質問・疑問などを書いてもらうよう



（写真 1 ご自身が全盲で盲導犬ユーザーでもある図書館員・松井進さん）



（写真 2 ロービジョン当事者として、全国のロービジョンの人に拡大読書器による読み書きについてアドバイスしている森田茂樹さん）



（写真 3 映画の音声ガイド制作を長年つづけている武藤歌織さん）

に務めています。これまでの経験では、圧倒的に「知らなかった」という感想が多いのが特徴です。つぎに多い感想は、「まずは自分の家族や友人などに今日知ったことを伝えたい」というものです。

私が扱っている内容は、おそらくこれまでの学校の授業や、マスメディアではなかなか取り上げられていないテーマが多く含まれていると思います。

将来、学生たちが図書館の司書や司書教諭になった時、あるいはそれ以外の仕事に就いたとしても、きっと役に立つ「きっかけ」が含まれているものと確信しています。

*注：困ってるズ

<http://synodos.jp/komatterus/>

図書館実習を終えて

相模原市立相模大野図書館 文学部日本語学科3年 河村 知佳

夏休み期間中の9月に10日間、図書館実習に行ってきました。受け入れて下さったのは相模原市立相模大野図書館です。相模大野図書館は2007年10月からNPO法人らしいぶらいぶらに業務委託しており、司書による図書館運営はもちろんのこと、図書館活用講座の開催、コンシェルジュの導入など様々なニーズに応えるための積極的な図書館づくりを行っています。今回私の担当について下さったのもこのNPO法人の方で、司書課程の授業では聞くことのできないような現場のことを知ることができました。実習期間中はありとあらゆる業務を体験させてもらったのですが、特に“実習に来て良かった！”と強く思った2つの業務についてお話をさせていただきます。

まず、カウンター業務です。普段利用者として図書館に行くと、図書館員の存在を認識できるのが貸し出し返却を行うカウンターではないでしょうか。資料のバーコードを読みとって貸し出し返却を行うだけの単純作業かと思いきや、とても重要でやりがいのある仕事でした。貸し出し処理の手順を説明します。利用者の方から貸出券を預かる（予約されている資料がある場合はここで端末に情報が出るので用意する）→貸出券をお返し、資料のバーコードを読む→資料に付録（CDやDVDなど語学学習書などに多い）がある場合は、一緒に借りられるか尋ねる→資料に付けられている磁気を解除する→返却期限の

印字された紙を挟んで、資料をお渡するという流れです。磁気解除の必要が無いAV資料はケースの番号とディスクの番号が合っているか、歌詞カードがある場合



開館前に書架を整理

はその番号も合っているか確認をします。カウンター業務時に資料の状態について、より注意深く確認するのは返却処理の時です。では、返却処理の手順も説明します。利用者の方から資料を預かる→付録付き資料やAV資料はちゃんと中身がそろっているかを確認してからバーコードを読む→返却処理が完了したことを利用者の方に伝える→二度目の返却処理を行う（確実に返却処理を行わないとトラブルの原因になってしまう）というように、作業はごく簡単なものですが返ってきた資料の中身の確認や、市内のどの図書館の資料か、などをまれなく確認することでスムーズに配架などに移せるのです。このように説明すると、とても事務的な作業のようですが実際に大切なのは利用者の方とのコミュニケーションです。図書館を気持ちよく利用して頂くためには、挨拶や心配りなどが重要だと思います。私自身、実習前に先生から「大事なのはコミュニケーションの能力だ」と教えてもらっていたので、カウンター業務をする際は心がけました。

次は、おはなし会です。今回の実習では実際におはなし会に参加してもらい、絵本の選書から自分で行いました。選書の際に注意したことは、絵が大きくてよく見えるか、季節を大きく外れていないか、などです。「初めてなら自分も読んだことのあるベストセラーがお勧め」とのアドバイスを頂き、『わにくんのおおきなあし』という絵本を読みました。練習時にページをめくるタイミングと本の傾きについて指摘を受けていたのでそのことに気をつけながら読んでみると、子どもたちが視線をこちらに向け集中して聴いてくれたので嬉しかったです。実際に子どもたちの前で絵本を読んだのは始めてだったので、とても良い経験になりました。

この他にも、新刊本の受け入れや雑誌の装備、資料の修繕やレファレンス共同データベースへの入力など、短期間で様々なことを体験することができました。今まで司書課程の授業で聞いていた内容がより具体的に自分のものになり、今後の授業では現場のことを想像しながら聞くことができるなと感じられた10日間の図書館実習でした。

私が司書・司書教諭課程を履修しようと思ったのは、図書館という空間を気に入っていたからです。そして、次第にその空間で働いている司書の仕事を学んでみたいと思うようになりました。図書館を小学生の頃から利用していたというのも影響していると思います。履修を決めた当時は、学んでいきたいという意欲はあったものの、不安もありました。今まで調べ物をするのに図書館を利用している一方で、毎日本にかじりついて読書をするような本の虫ではなかったからです。

私はその不安を払拭する為、講義では、試験前に講義内容を思い出して見直しの手がかりになればと思い、先生が話した内容をメモに取ることを心がけました。また試験対策としては、暗記用のペンと下敷きを活用して暗記をしていました。具体的には、講義で頂いたプリントを縮小印刷したものや、ルーズリーフに重要事項をまとめたものを使い、電車に乗っているときなどの学習に活用していました。

1年生の前期を終えて、反省しているのが時間配分です。私は、まだ間に合うと思って課題を後回しにし、後に次から次へと他の科目からも課題が出て、期限間近に焦って課題に取り組むということが多々ありました。私自身の後期からの課題であるとともに、履修を目指している皆様にも心に留めて欲しいと思います。

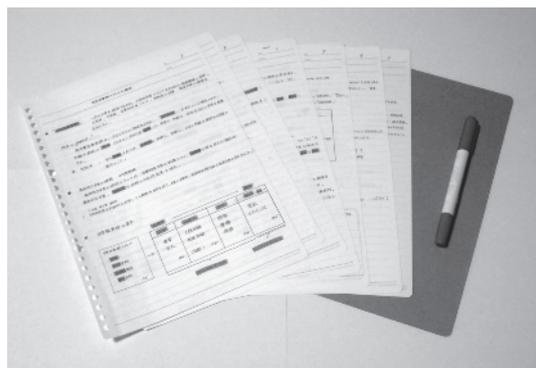
今、前期の講義を終えて振り返ってみると、司書・司書教諭の講義は専門的な内容が多かったと思います。それが、これらの科目の最大の魅力である一方、少しでも基礎知識がないと先生の講義内容を聴き、理解することが難しいかもしれないと感じました。私は、意図していたわけではありませんが、大学生になってから課題を仕上げたり学習を深めたりする為、図書館の利用頻度が増加したとともに今まで行ったことがない図書館にも行くようになりました。こうして、私はいくつかの図書館を利用していく中で、それぞれの図書館の特徴が見えてくるようになり、図書館が身近に感じられるようになりました。これが、司書・司書教諭課程の講義の理解に役立っていたかもしれないと思っています。

多くの図書館は、誰でも利用することができます。これから司書や司書教諭を目指して学びたい方は、まずはお近くの図書館へ足を運んでいただき、図書館を実際に見てください。図書館を身近に感じ、後の講義内容が頭に入りやすくなると思います。

私は、現在司書・司書教諭を目指して学習をしています。この文章をお読みになっている方の中には、これから両方目指して学習したい、あるいは現在どちらか一つを目指していたけれどこれから新たに挑戦したいという方がいらっしゃると思います。

その方の中には、履修する科目が増えて大変そうだからと悩んでいる向きもあるのではないのでしょうか。1年目の前期を終えて実感していることは、司書・司書教諭課程の学習内容はそれぞれ関連していることが分かりました。全ての科目をゼロから学ぶわけではありませんから、皆様が想像するよりは大変ではないと思います。丁寧に学習を進めていくことが出来れば、次第に理解度が相乗効果によって上がってくるはずですよ。迷っている方は、飛び込んでみることをお勧めします。

私は、先日の講義で本を傷みにくくするために表紙にカバーをかけるブックコートの演習を学び、その後自宅でも問題集にかけてみました。まだまだ学んだばかりで決して上手とは言えない出来ではありましたが、日々の生活に学んだことを生かせる喜びを実感しました。何をやるにも遅いことはありません。大切なのは、興味とそこから生まれるやる気です。司書・司書教諭課程に興味を持たれた皆様、学習を通じて喜びを実感してみませんか。



重要事項をまとめたルーズリーフと暗記に使ったもの



学芸員課程



現場から見た学芸員の職務について

公益財団法人メトロ文化財団地下鉄博物館 学芸員 細川 海里 (平成24年度経済学部経済学科卒業)

はじめに

私は平成25年3月に専修大学二部経済学部を卒業し、同年4月から公益財団法人メトロ文化財団に入団、現在は当財団が管理及び運営している地下鉄博物館に学芸員として勤務しています。今回は、当館の概要を紹介しながら現在の私の仕事についてお話をさせて頂き、博物館運営の現場や学芸員の職務について少しでも理解を深めて頂ければ幸いです。

1. 当館の概要

地下鉄博物館は、多くの人々の地下鉄に関する知識と理解を深めてもらうという目的



で、帝都高速度交通

丸の内線301号車 (手前)・日本初の地下鉄車両1001号車 (奥)

団(現在の東京メトロ)の全面的な協力・支援を受け、昭和61(1986)年7月12日に地下鉄東西線・葛西駅の高架下に開館しました。現在の当館の運営は、東京メトログループにおける社会貢献活動の一翼を担う公益財団法人メトロ文化財団が受け持っており、「地下鉄に関する知識の普及、沿線地域文化の振興及び交通道德の高揚を図ることにより、交通文化の発展に寄与する」という事業目的を達成するための大きな柱として、地下鉄に関する資料の収集、保管及び展示等に代表される博物館の管理運営を行っています。

館内の展示については「みて、ふれて、動かして」というコンセプトに基づいて構成されており、1927(昭和2)年に日本初の地下鉄が上野～浅草間に誕生してから現在に至るまで、地下鉄がどのような形で都市の発達や人々の暮らしに寄与してきたのか、その歴史をわかりやすく学べるようになっています。また、貴重な実物資料も数多く展示しており、日本初の地下鉄車両1001号車と戦後初の地下鉄車両301号車は当館のシンボルの存在ともなっています。更に、コンセプトを体現する参加型展示の目玉として地下鉄の運転シミュレーターが4基設置されており、千代田線・銀座線・有楽町線・東西線の各路線の運転を体験することが出来ます。中でも千代田線の運転シミュレーターは実物と同じ機械の運転台で体験を楽しむことが出来、多くのお客様から好評を博しています。

決して規模の大きな施設ではありませんが、日本で唯一の地下鉄を専門的に取り扱う博物館として、他の博物館等では見ることの出来ない特色ある資料を展示・公開しています。

2. 仕事内容

次に、現在の私の仕事内容についてご説明します。私は平成25年4月に地下鉄博物館の運営主体である公益財団法人メトロ文化財団に採用され、地下鉄博物館施設課に配属となりました。施設課では、博物館のあらゆる設備の維持管理に関する業務を受け持っているため、業務内容は非常に多岐に渡ります。例えば空調設備や水道設備・防災設備、電気設備の保守点検について業者と打ち合わせてこれを実施する事や、館内展示物のうちシミュレーター装置や実物車両等大規模なものの保守管理等を専門的に担当しており、逆に小さなものでは、館内の電灯類の交換・保守等を日常業務として行っています。これらの業務の中には、ある程度の専門的知識を要するものもあるので、資格取得や各種講習への参加等にも積極的に取り組み、業務知識の習得に励んでいます。

また、施設課の専門業務以外に博物館の一般運営業務も担当しているので、シミュレーターの操作方法の解説や受付での案内業務、映画の上映操作等をその日の仕業(予めパターン化された作業スケジュールのようなもの)に沿って行うほか、土日祝日には昔懐かしい有人による改札を、展示を兼ねて行っているため、改札錠を持ってエントランスに立つこともあります。



129号車と台車

ところで、いわゆる世間的なイメージにおける学芸員の仕事として皆さんが思い浮かべるのは、

美術品の修復や特別展の企画などの展示や資料に係る仕事、あるいは資料のデータベース化や図録の作成などの調査研究・教育に係る仕事ではないでしょうか。もちろんそういった仕事は学芸員の本懐とも言える重要な職務であり、法規上にも「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさ



筆者（左）と小野施設課長

私も上に挙げたように様々な業務に携わっています。このような状況に関しては多くの議論がなされているところではありますが、私個人の考えとしては、博物館のエキスパートたる学芸員として地下鉄博物館の全ての業務を習得する一つのチャンスと捉え、大きなやりがいを感じています。

3. 当館の課題に関する私見

当館は先に述べた通り、地下鉄に関する資料に重点を置いて展示を構成しています。特に参加体験型の展示には力を入れており、シミュレーターやハンドル操作体験等、実物資料に触れて楽しみながら学習出来る博物館を目指しています。但しそのような流れの中で、過度のテーマパーク化をどう防ぐか、という重要な課題があります。確かに集客と言う観点から見れば、誰にでも楽しめる難易度の低い展示・解説や、ゲーム性の高い展示は有効であると言えます。しかし、博物館の本来の存在意義は教育機関であり、また調査研究機関であります。これを疎かにしてしまっただけでは、そこはもはや博物館ではなく、単なる遊戯施設となってしまいます。従って、「テーマパーク（アミューズメント施設）」ではなく「ミュージアム（アカデミックな施設）」としての価値をどのように高めていくのか、日頃の運営の中で常に念頭に置く必要があると考えています。

また、当館を運営・管理するメトロ文化財団は、平成24年4月1日に公益財団法人として認定を受けま



早川像と301号車

どる（博物館法第4条4項）」と規定されています。しかし、多くの博物館が必要最小限の人員で運営を行っている中で、学芸員がこれらの専門業務のみに特化するという体制をとることは非常に難しいのが現状であり、

した。当館についても、かねてより特定の企業に特化するのではなく「地下鉄」という業界全体について広く取り扱う博物館として運営を進めてきましたが、今まで以上に、社会的公益性の高い施設として地下鉄文化の振興のためにどのような活動していくのか、多角的に検討しています。

当館にはこれ以外にも、まだまだ多くの課題があります。新人ではありますが、私も一人の学芸員として地下鉄博物館を将来どんな場所にしていきたいのか、臆気ながらイメージして仕事に取り組むよう心がけています。

おわりに

近年、博物館の社会における活動内容や存在意義が少しずつ変化しています。単なるシンボ



早川徳次像

ル的な、いわゆる「ハコモノ」の施設として博物館を捉えるのではなく、社会的価値のある施設として今まで以上に活用しようという動きが活発化し、地域や学校と協働した教育普及活動や交流事業が各所で行われています。また、同じ社会教育施設として関連する機能を持つ図書館との連携も重要視されており、当館でも地域の図書館主催の講演会への協力等を行っています。そのような流れの中で、学芸員の職責は今まで以上に重くなってきており、専門性の高い知識・能力を求められることはもちろん、従来のやり方に囚われない広い視野で館の運営を進める力が必要とされています。学芸員の資格取得を目指している皆さんには、是非その点を認識して頂き、日々変化する状況に柔軟に対応出来る力を身につけて欲しいと思います。

最後になりましたが、資格課程を履修している方の大半は、学芸員や司書、教員として就職し、活躍することを最終目標にしているのではないかと思います。そのスタートラインに立つこと、つまりそれぞれの資格を活かせる職に就くことは、決して簡単な事ではありません。しかし、大きな夢を叶えるまたとないチャンスであることも事実です。長いようで短い大学生活を無駄にしないよう、常に目的意識をもって行動し、諦めずにそれぞれの道を突き進んで下さい。一人の先輩として、皆さんの活躍に期待しています。

博物館実習を終えて

須賀川市立博物館 文学部歴史学科3年 山本 夢月

6月4日(火)から8日(土)までの5日間、出身県の福島県にある須賀川市立博物館で博物館実習を行いました。須賀川市立博物館は、昭和45年に、県内90市町村に先駆けて開館しました。常設展では、古代から現代にいたる須賀川の歴史を展示しており、また、年に3~4回の特別展と企画展を開いています。収蔵資料の主なものとして、垂欧堂田善銅版画コレクション、刀装具コレクション、雛人形コレクション、俳諧摺りコレクション、阿武隈考古館コレクション、重要文化財の米山寺経塚出土品などがあります。

実習では、講座開講補助・企画展撤収補助・展示・キャプション作り・史料の取り扱い方・展示ケース内の清掃など、学芸員としての仕事を体験させていただきました。

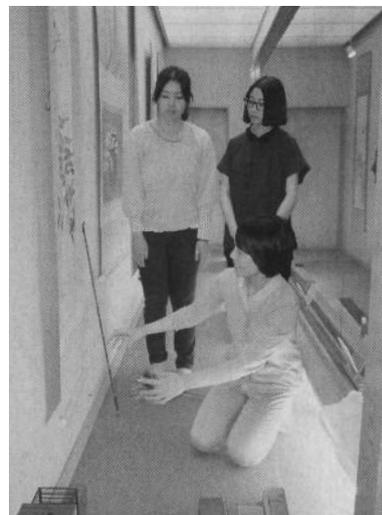
実習1日目には、須賀川市立博物館では初めてのミュージアムコンサート、「牡丹画とチェンバロの出会い」が開催されることとなり、その補助という貴重な体験をさせていただきました。6月2日まで、企画展「牡丹絵画コレクション展」が行われていた展示室で、展示はそのままに、牡丹画に囲まれチェンバロの演奏を聴くという形です。近くの公民館からパイプ椅子の搬入を行い、椅子を設置し、来館者の案内、さらにはチェンバロの組み立てを手伝わせていただきました。一般的なコンサートと大きく違うのは、室温の管理を徹底することです。室温が高くなれば牡丹画にダメージを与えてしまいます。資料は保存と活用のバランスが大変難しく、どのような場面でも資料が最優先、資料を守っていくことが学芸員の努めであると再認識することができました。学芸員の方達と一丸になってミュージアムコンサートを成功させることができ、大きな達成感を得ると同時に、博物館の新しい在り方を発見する良い機会となりました。

実習の一環として、須賀川市立博物館から車で30分の距離にある須賀川市歴史民俗資料館へも訪れました。2011年の震災で藤沼湖が決壊し、湖の近くにあった歴史民俗資料館の収蔵庫は水にのまれました。遺跡や発掘調査に関する図面が水と泥をかぶり、大半が

地元の歴史に深く関係するもので、被害は1000点以上にのぼります。泥を取り除いた物もありますが、大部分が手付かずの状態です。新しく作られた収蔵庫を見学することができたのですが、2年たった今も、汚れを取り除く作業の段階のものが多く残っており、収蔵庫も資料を保存する最適な状態ではないようでした。学芸員以外の地元の方がそれらの作業を手伝ってくださり、また2つの館が協力して復興へ向かっていく状況を目の当たりにし、自分が学芸員だったとして何をすべきなのか、また何が出来るのかを考えさせられました。

今回の実習では、自分の中の学芸員という仕事への認識が大きく変わりました。想像以上の体力を必要とし、想像していたより多様な仕事をこなしています。資料の取り扱いについても一から学び、自分の知識がどれだけ未熟なものであったか、座学だけでは決して学ぶことのできなかつたことを、本物の資料に見て触れることで初めて知ることができたのです。学芸員の方が「ここでは自分の専門分野は関係ない。“須賀川市”が専門になる。」とおっしゃられました。実習では須賀川市の生涯学習行政を学ぶことができました。関心を寄せたことがなかった市の生涯学習行政でしたが、地域密着型の博物館となれば、市の行政などを把握しておかなければならないということは、私にとって新しい発見でした。

普段の学生生活では体験できない貴重な経験をたくさん経験することができ、より一層学芸員になりたいという気持ちが強くなった実習でした。



本人右奥
(あぶくま時報 平成25年6月10日掲載)

博物館実習を終えて

横浜都市発展記念館 文学部人文・ジャーナリズム学科3年 君塚 彩香

私は6日間、横浜市中区日本大通にある横浜都市発展記念館で博物館実習を行いました。

横浜都市発展記念館は、現在の横浜をより理解するために、昭和初期を中心として、「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の3つの側面から、都市横浜の発展の歩みを紹介しています。博物館の建物は、1929（昭和4）年に横浜中央電話局の局舎として建てられた歴史的建造物です。4階には常設展示室、3階には企画展示室を持つ、2003（平成15）年にオープンした比較的新しい博物館です。建物全体で昭和初めの横浜の街の歴史を現在の私たちに発信しています。



文献資料を調査中の風景

この都市発展記念館で博物館実習を行う以前、大切な資料を扱う仕事に不安を感じていました。事前に渡された館務実習の日程表を見ても、様々な種類の資料の調査と整理、更に、展示実習まで予定されており、机の上での作業ばかりだと考えていました。

しかし、今まで博物館の展示ケース越しでしか見ることのできなかつた資料を間近で見ると触れ、調査することはおもしろく、毎回新鮮でした。大学の授業では見ることのできなかつた、昭和初期のデパートのチラシやダイレクトメール、観光会社の発行した無料パンフレットなどを整理しました。映像資料としては、ネガフィルムという写真でしか見たことのできなかつた資料を扱いました。博物館に収蔵されている資料は、実際に人々の生活の中で使用されていたことが考えられ、とても興味

深いと考えました。実習の中では、いくつかの資料を口頭で説明していく機会もあり、簡潔な説明に加え、見どころを伝えなければならないということがとても難しいと実感しました。

また、博物館を飛び出して、山手の120番館の発掘現場の見学と、ジェラルド瓦工場跡や街の至る所にある異人館などの歴史的建造物を踏査しました。私は、学芸員の仕事は博物館内だけだと考えていました。しかし、学芸員が発掘調査や町中の遺跡の保存活動に携わっていることを知り、学芸員の仕事は幅広く、魅力的だと思いました。

昭和初期の絵葉書を使ったテーマでケース内を構成し、実際に展示の体験もさせていただきました。他大学の実習生3人と、見に来る人に楽しんでもらえるような工夫を考えていくことにやりがいを感じました。特に、社会科見学の小学生から、ご年配の方まで、この館を訪れる多くの人たちに伝わるように、短い文章で簡潔に伝えることはとてもたいへんな作業でした。資料一つ一つの展示の仕方に多くの人に見てもらいたい、この資料の魅力を知ってもらいたいという学芸員の気持ちがこもっていることを実感しました。

博物館実習を通して、初めて大学以外の世界を垣間見ることができました。私たちが実習で製作した展示の先には新たな発見を求めて横浜都市発展記念館を訪れる人々が存在するということが初めて気が付きました。本当に貴重な経験をさせていただくことができたと思っています。



展示実習で作った展示物



データ編



平成25年度 資格課程履修者数

学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計		
		1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部			
教 職	経 済	経 済	39	4	47	4	32	6	38	7	156	21	177	
		国 際 経 済	12	-	10	-	11	-	7	-	40	-	40	
	法	法 律	30	11	41	10	25	12	20	5	116	38	154	
		政 治	18	-	13	-	15	-	7	-	53	-	53	
	経 営	経 営	28	-	62	-	27	-	26	-	143	-	143	
		マ ー ケ テ ィ ン グ	33	4	37	7	37	5	22	7	129	23	152	
	職	商	会 計	8	-	2	-	8	-	6	-	24	-	24
			日 本 語 日 本 文 語	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
		文	日 本 語 日 本 文 語	31	-	24	-	18	-	11	-	84	-	84
			日 本 文 学 文 化	30	-	30	-	22	-	25	-	107	-	107
文		英 語 英 米 文 文	28	-	40	-	30	-	24	-	122	-	122	
		人 文 哲	-	-	-	-	-	-	7	-	7	-	7	
文		歴 史	10	-	7	-	5	-	11	-	33	-	33	
		環 境 地 理	70	-	43	-	36	-	29	-	178	-	178	
文		環 境 地 理	11	-	13	-	5	-	1	-	30	-	30	
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	4	-	11	-	7	-	6	-	28	-	28	
職	心 理	心 理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		心 理	22	-	19	-	34	-	17	-	92	-	92	
人 間 科	心 理	心 理	2	-	3	-	4	-	4	-	13	-	13	
		社 会	11	-	8	-	7	-	17	-	43	-	43	
大 小	目 等	学 院 生 計	11	-	-	-	-	-	-	-	11	-	11	
		履 修 生 計	-	26	-	-	-	-	-	-	-	26	26	
合 計		398	45	410	21	323	23	279	19	1,410	108	1,518		
			443		431		346		298		1,518			

学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計		
		1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部			
司 書	経 済	経 済	3	-	4	1	5	2	5	5	17	8	25	
		国 際 経 済	-	-	-	-	3	-	3	-	6	-	6	
	法	法 律	4	5	15	3	11	2	9	9	39	19	58	
		政 治	2	-	4	-	6	-	3	-	15	-	15	
	経 営	経 営	2	-	3	-	-	-	-	-	5	-	5	
		マ ー ケ テ ィ ン グ	-	1	3	-	4	4	6	4	13	9	22	
	職	商	会 計	-	-	-	-	2	-	2	-	4	-	4
			日 本 語 日 本 文 語	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	2
		文	日 本 語 日 本 文 語	11	-	14	-	19	-	9	-	53	-	53
			日 本 文 学 文 化	33	-	41	-	45	-	26	-	145	-	145
文		英 語 英 米 文 文	2	-	6	-	2	-	10	-	20	-	20	
		人 文 哲	-	-	-	-	-	-	4	-	4	-	4	
文		歴 史	3	-	8	-	7	-	11	-	29	-	29	
		環 境 地 理	25	-	8	-	24	-	17	-	74	-	74	
文		環 境 地 理	2	-	2	-	3	-	7	-	14	-	14	
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	-	-	3	-	11	-	3	-	17	-	17	
職	心 理	心 理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		心 理	1	-	9	-	8	-	7	-	25	-	25	
人 間 科	心 理	心 理	5	-	2	-	2	-	4	-	13	-	13	
		社 会	3	-	6	-	3	-	7	-	19	-	19	
大 小	目 等	学 院 生 計	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
		履 修 生 計	-	4	-	-	-	-	-	-	-	4	4	
合 計		96	11	128	4	155	8	135	18	514	41	555		
			107		132		163		153		555			

学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計		
		1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部			
司 書 教 諭	経 済	経 済	-	-	2	-	1	-	3	-	6	-	6	
		国 際 経 済	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	法	法 律	1	-	10	-	2	-	1	1	14	1	15	
		政 治	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	2	
	経 営	経 営	-	-	5	-	-	-	-	-	5	-	5	
		マ ー ケ テ ィ ン グ	-	-	-	-	-	-	2	1	2	1	3	
	職	商	会 計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			日 本 語 日 本 文 語	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		文	日 本 語 日 本 文 語	1	-	8	-	2	-	1	-	12	-	12
			日 本 文 学 文 化	2	-	9	-	7	-	2	-	20	-	20
文		英 語 英 米 文 文	-	-	1	-	-	-	3	-	4	-	4	
		人 文 哲	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	
文		歴 史	-	-	3	-	-	-	1	-	4	-	4	
		環 境 地 理	3	-	2	-	3	-	2	-	10	-	10	
文		環 境 地 理	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	2	
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	-	-	1	-	1	-	-	-	2	-	2	
職	心 理	心 理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		心 理	-	-	2	-	2	-	1	-	5	-	5	
人 間 科	心 理	心 理	-	-	1	-	2	-	-	-	3	-	3	
		社 会	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	3	
大 小	目 等	学 院 生 計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		履 修 生 計	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	2	
合 計		7	9	46	46	20	20	22	24	95	4	99		

学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合 計		
		1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部	1 部	2 部			
学 員	経 済	経 済	-	-	-	-	5	3	3	-	8	3	11	
		国 際 経 済	-	-	-	-	1	-	2	-	3	-	3	
	法	法 律	1	-	1	1	1	-	1	2	4	3	7	
		政 治	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	2	
	経 営	経 営	-	-	1	-	-	-	1	-	2	-	2	
		マ ー ケ テ ィ ン グ	-	-	1	-	10	3	3	1	14	4	18	
	職	商	会 計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			日 本 語 日 本 文 語	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		文	日 本 語 日 本 文 語	1	-	2	-	3	-	-	-	6	-	6
			日 本 文 学 文 化	7	-	7	-	10	-	1	-	25	-	25
文		英 語 英 米 文 文	-	-	1	-	-	-	2	-	3	-	3	
		人 文 哲	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	
文		歴 史	2	-	5	-	5	-	2	-	14	-	14	
		環 境 地 理	28	-	28	-	26	-	5	-	87	-	87	
文		環 境 地 理	1	-	4	-	4	-	1	-	10	-	10	
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	2	-	2	-	6	-	2	-	12	-	12	
職	心 理	心 理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		心 理	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	2	
人 間 科	心 理	心 理	3	-	1	-	-	-	-	-	4	-	4	
		社 会	-	-	5	-	2	-	-	-	7	-	7	
大 小	目 等	学 院 生 計	4	1	-	-	-	-	-	-	4	1	5	
		履 修 生 計	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	2	
合 計		49	3	58	1	77	6	24	3	208	13	221		
			52		59		83		27		221			

データ編

Pano. a Pano.

平成25年度 教員免許状取得状況一覧

区分	学部	学 科 [専 攻]	取得人数	中 学 1 種		高 校 1 種		中 学 専 修		高 校 専 修		合 計				
				教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数					
一 部	経 済	経 済	5(0)	社 会	3(0)	地 理 歴 史	3(0)	公 民	3(0)	—	—	—	—	9(0)		
		国 際 経 済	0	社 会	0	地 理 歴 史	0	公 民	0	—	—	—	—	0		
	法	法 律	20(4)	社 会	16(4)	地 理 歴 史	16(4)	公 民	16(4)	—	—	—	—	48(12)		
		政 治	6(2)	社 会	5(1)	地 理 歴 史	3(1)	公 民	6(2)	—	—	—	—	14(4)		
	経 営	経 営	8(1)	社 会	4(1)	公 民	7(1)	商 業	2(0)	—	—	—	—	13(2)		
			情 報	0	地 理 歴 史	6(2)	公 民	5(1)	商 業	5(1)	—	—	—	—	20(5)	
	商	マ ー ケ ティ ン グ	13(3)	社 会	4(1)	情 報	0	地 理 歴 史	6(2)	公 民	5(1)	商 業	5(1)	—	—	20(5)
			会 計	2(2)	—	—	商 業	2(2)	—	—	—	—	—	—	—	2(2)
	文	日 本 語	[日 本 語 学]	1(1)	国 語	1(1)	国 語	1(1)	—	—	—	—	—	—	2(2)	
			[日 本 文 学 文 化]	0	国 語	0	国 語	0	—	—	—	—	—	—	—	0
		日 本 語	10(4)	国 語	7(3)	国 語	10(4)	—	—	—	—	—	—	—	17(7)	
		日 本 文 学 文 化	23(16)	国 語	18(13)	国 語	23(16)	書 道	6(6)	—	—	—	—	—	47(35)	
		英 語 英 米 文	22(9)	外 国 語 (英 語)	22(9)	外 国 語 (英 語)	22(9)	—	—	—	—	—	—	—	44(18)	
		人 文	[哲 学 人 間 学]	1(0)	社 会	1(0)	地 理 歴 史	0	公 民	0	—	—	—	—	—	1(0)
				[歴 史 学]	2(1)	社 会	0	地 理 歴 史	2(1)	公 民	0	—	—	—	—	2(1)
				[環 境 地 理 学]	0	社 会	0	地 理 歴 史	0	公 民	0	—	—	—	—	0
				[社 会 学]	0	社 会	0	地 理 歴 史	0	公 民	0	—	—	—	—	0
		哲	6(3)	社 会	3(1)	地 理 歴 史	3(0)	公 民	6(3)	—	—	—	—	—	12(4)	
		歴 史	26(14)	社 会	15(7)	地 理 歴 史	26(14)	公 民	14(7)	—	—	—	—	—	55(28)	
		環 境 地 理	1(0)	社 会	0	地 理 歴 史	1(0)	公 民	1(0)	—	—	—	—	—	2(0)	
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	6(3)	社 会	5(2)	地 理 歴 史	5(3)	公 民	2(2)	—	—	—	—	—	12(7)	
		心 理	0	社 会	0	公 民	0	—	—	—	—	—	—	—	0	
	人 間 科	心 理	4(3)	社 会	0	公 民	4(3)	—	—	—	—	—	—	—	4(3)	
		社 会	13(4)	社 会	10(3)	地 理 歴 史	7(2)	公 民	10(3)	—	—	—	—	—	27(8)	
	小 計	175(73)	—	119(49)	—	225(97)	—	—	—	—	—	—	—	344(146)		
	二 部	経 済	経 済	2(1)	社 会	2(1)	地 理 歴 史	0	公 民	2(1)	—	—	—	—	4(2)	
			商 業	0	地 理 歴 史	0	公 民	0	—	—	—	—	—	—	0	
		法	法 律	1(1)	社 会	1(1)	地 理 歴 史	0	公 民	1(1)	—	—	—	—	2(2)	
		商	マ ー ケ ティ ン グ	2(0)	社 会	2(0)	地 理 歴 史	2(0)	公 民	1(0)	—	—	—	—	5(0)	
	商 業			0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
小 計	5(2)	—	5(2)	—	6(2)	—	—	—	—	—	—	—	11(4)			
科 目 等 履 修 生	小 計	11(3)	—	—	国 語	1(1)	国 語	1(1)	国 語	—	国 語	—	—	—		
		—	—	—	外 国 語 (英 語)	2(1)	外 国 語 (英 語)	2(1)	外 国 語 (英 語)	—	外 国 語 (英 語)	—	—			
		—	—	—	社 会	2(0)	地 理 歴 史	3(0)	公 民	3(1)	商 業	3(0)	—			
		—	—	—	数 学	0	情 報	0	数 学	0	—	—	—			
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
小 計	11(3)	—	5(2)	—	12(3)	—	—	—	—	—	—	—	17(5)			
大 学 院 生	小 計	2(1)	—	—	—	—	—	—	—	国 語	0	国 語	0	—		
		—	—	—	—	—	—	—	—	外 国 語 (英 語)	0	外 国 語 (英 語)	0	—		
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
		—	—	—	—	—	—	—	—	社 会	1(0)	地 理 歴 史	2(1)	公 民	0	
小 計	2(1)	—	—	—	—	—	—	—	1(0)	—	—	—	3(1)			
合 計	193(79)	—	129(53)	—	243(102)	—	—	—	1(0)	—	—	—	375(156)			

1. () 内は、女子で内数である。
2. この表は、教員免許状一括申請をした数である。

平成25年度 教育実習先一覧 (生田)

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生			
				学部	学科	専攻	
北海道	北海道	札幌大谷高等学校	国語	文	日本文学文化		
	北海道	北海道札幌開成高等学校	公民	人間科	心理		
	青森県	八戸市立根成中学校	英語	文	英語英米文		
	青森県	青森県立三本木高等学校	地理歴史	文	環境地理		
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	日本文学文化		
	岩手県	宮古市立河南中学校	社会	文	人・ジャーナリズム		
	宮城県	東北高等学校	地理歴史	経済	国際経済		
	宮城県	仙台育英学園秀光中等教育学校	英語	文	英語英米文		
	秋田県	秋田県立秋田南高等学校	地理歴史	文	哲		
	秋田県	明桜高等学校	地理歴史	人間科	社会		
東北	福島県	福島県立須賀川桐陽高等学校	公民	経営	経営		
	福島県	福島県立福島商業高等学校	商業	商	会計		
	福島県	福島県立若松商業高等学校	商業	商	会計		
	福島県	会津若松市立湊中学校	国語	文	日本文学文化		
	福島県	福島県立いわき光洋高等学校	国語	文	日本文学文化		
	福島県	郡山ザベリオ学園中学校	英語	文	英語英米文		
	茨城県	茨城県	水戸啓明高等学校	商業	経営	経営	
		茨城県	茨城県立日立北高等学校	国語	文	日本語	
		茨城県	茨城県立水海道第一高等学校	英語	文	英語英米文	
		茨城県	清真学園高等学校・中学校	社会 地理歴史	人間科	社会	
茨城県		鹿嶋市立波野小学校	全科	人間科	社会		
茨城県		日立市立坂本中学校	社会	人間科	社会		
茨城県		水戸市立第四中学校	社会	人間科	社会		
栃木県		栃木県	芳賀町立芳賀中学校	社会	経済	経済	
		栃木県	佐野市立城東中学校	国語	文	日本語	
		栃木県	宇都宮市立陽南中学校	国語	文	日本文学文化	
	栃木県	栃木県立小山高等学校	公民	人間科	心理		
	栃木県	國學院大学栃木高等学校	公民	人間科	社会		
	群馬県	群馬県	東京農業大学第二高等学校	地理歴史	経済	経済	
		群馬県	太田市立商業高等学校	商業	経済	国際経済	
		群馬県	群馬県立館林商工高等学校	商業	商	マーケティング	
		群馬県	前橋市立富士見中学校	社会	人間科	社会	
		群馬県	群馬県立太田女子高等学校	公民	人間科	社会	
埼玉県		埼玉県	埼玉栄高等学校	公民	経営	経営	
		埼玉県	埼玉県立浦和北高等学校	国語	文	日本語	
		埼玉県	富士見市立本郷中学校	国語	文	日本文学文化	
		埼玉県	桶川市立桶川中学校	国語	文	日本文学文化	
		埼玉県	埼玉平成高等学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	神川町立神川中学校	社会	文	哲		
	埼玉県	埼玉県立与野高等学校	公民	文	哲		
	埼玉県	埼玉県立松山女子高等学校	地理歴史	文	歴史		
	埼玉県	本庄東高等学校	地理歴史(世界史)	文	人・ジャーナリズム		
	埼玉県	埼玉県立狭山経済高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報		
埼玉県	花咲徳栄高等学校	地理歴史	文学研究科	歴史学			
千葉県	千葉県立八千代高等学校	公民	経営	経営			

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
千葉県	千葉県	専修大学松戸高等学校	社会・公民	経営	経営	
	千葉県	流通経済大学付属柏高等学校	英語	文	英語英米文	
	千葉県	和洋国府台女子高等学校	地理歴史・社会	文	歴史	
	千葉県	千葉県立千城台高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	山武市立成東東中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	千葉県立八千代高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	千葉県立東葛飾高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	千葉敬愛高等学校	地理歴史	文	人・ジャーナリズム	
	千葉県	鴨川市立安房東中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済	
東京都	東京都	東久留米市立西中学校	社会	経済	経済	
	東京都	郁文館中学校	社会	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	芝浦工業大学中学高等学校	社会・公民	商	マーケティング	
	東京都	東京都立竹早高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	大妻中学高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	東京都立調布南高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	明星中学高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立豊多摩高等学校	国語	文	日本文学文化	
東京都	東京都	江戸川女子中学校・高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京学園高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立町田高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	聖学院中学・高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	国立音楽大学附属中学校・高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	日本大学櫻丘高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	町田市立成瀬台中学校	社会	文	人文	
	東京都	大成高等学校	地理歴史	文	哲	
	東京都	東京都立昭和高等学校	地理歴史	文	哲	
東京都	東京都	東京都立国分寺高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立松が谷高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	共栄学園中学高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東海大学菅生高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	日本学園中学校・高等学校	社会・地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立小川高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	江戸川区立小岩第五中学校	社会	文	歴史	
	東京都	東京都立武蔵丘高等学校	地理歴史(世界史)	文	歴史	
東京都	東京都	練馬区立開進第二中学校	社会	文	歴史	
	東京都	東京都立町田高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	文京区立文林中学校	社会	文	歴史	
	東京都	東京都立清瀬高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	文教大学付属中学・高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	

データ編

Passo & Passo

平成25年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関	東京都	専修大学附属高等学校	公民	人間科	心理	
	東京都	東京都立武蔵高等学校	公民	人間科	心理	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	東京都	品川区立小中一貫校 日野学園	社会	人間科	社会	
	東京都	国分寺市立第四中学校	社会	人間科	社会	
	東京都	あきる野市立増戸中学校	社会	文学研究科		歴史学
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	公民	経済	経済	
	神奈川県	森村学園高等部	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	横浜市立港中学校	社会	経済	国際経済	
	神奈川県	相模原市立相原中学校	社会	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立平塚中等教育学校	社会・公民	経営	経営	
	神奈川県	海老名市立今泉中学校	社会	経営	経営	
	神奈川県	横浜市立日吉台中学校	社会	商	マーケティング	
	神奈川県	神奈川県立横浜栄高等学校	公民	商	マーケティング	
	神奈川県	藤嶺学園藤沢高等学校	公民	商	マーケティング	
	神奈川県	神奈川県立港北高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	神奈川県	神奈川県立厚木高等学校	公民	商	マーケティング	
	神奈川県	神奈川県立舞岡高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	横須賀市立大楠中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	海老名市立有馬中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	川崎市立王禅寺中央中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	海老名市立有馬中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	横浜市立中川西中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	藤沢市立明治中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	横浜市立仲尾台中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立大船高等学校	公民	文	哲	
	神奈川県	藤沢市立滝の沢中学校	社会	文	哲	
	神奈川県	神奈川県立厚木東高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立藤沢西高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立金沢総合高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立金井高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	藤沢市立湘洋中学校	社会	文	人文・ジャーナリズム	
	神奈川県	神奈川県立新栄高等学校	地理歴史	文	人文・ジャーナリズム	
	神奈川県	川崎市立向丘中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	綾瀬市立綾北中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	伊勢原市立中沢中学校	社会	人間科	社会	
	神奈川県	相模原市立串川中学校	社会	人間科	社会	
	神奈川県	相模原市立串川小学校	全科	人間科	社会	
甲信越	新潟県	北越高等学校	地理歴史	経済	経済	
	新潟県	北越高等学校	公民	経営	経営	
	新潟県	中越高等学校	公民	経営	経営	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生			
				学部	学科	専攻	
甲	新潟県	糸魚川市立青海中学校	国語	文	日本語		
	新潟県	新潟県立六日町高等学校	国語	文	日本文学文化		
	新潟県	長岡市立宮内中学校	英語	文	英語英米文		
	新潟県	新潟県立糸魚川高等学校	地理歴史	文	歴史		
	新潟県	新潟市立金津中学校	社会	文	歴史		
	新潟県	新潟第一高等学校	地理歴史	文	人文・ジャーナリズム		
	信越	山梨県	駿台甲府中学校・高等学校	社会	経済	経済	
		山梨県	山梨県立吉田高等学校	国語	文	日本語	
		山梨県	山梨県立甲府昭和高等学校	英語	文	英語英米文	
		長野県	松商学園高等学校	商業	商	マーケティング	
長野県		長野県諏訪清陵高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報		
北陸	富山県	富山県立南砺福野高等学校	公民	経済	国際経済		
	富山県	高岡市立芳野中学校	社会	経営	経営		
	石川県	星稜高等学校	英語	文	英語英米文		
東海	岐阜県	岐阜県立大垣北高等学校	英語	文	英語英米文		
	静岡県	静岡県立静岡農業高等学校	地理歴史	経済	経済		
	静岡県	静岡県立島田商業高等学校	地理歴史	商	マーケティング		
	静岡県	静岡県立袋井商業高等学校	商業	商	マーケティング		
	静岡県	静岡県立沼津東高等学校	地理歴史	商	マーケティング		
	静岡県	静岡理科大学星陵高等学校	国語	文	日本文学文化		
	静岡県	静岡県立松崎高等学校	国語	文	日本文学文化		
	静岡県	静岡県双葉高等学校・中学校	国語	文	日本文学文化		
	静岡県	静岡県立吉原高等学校	国語	文	日本文学文化		
	静岡県	藤枝明誠高等学校	国語	文	日本文学文化		
	静岡県	静岡県立袋井高等学校	国語	文	日本文学文化		
	静岡県	森町立旭が丘中学校	社会	文	人文		
	静岡県	掛川市立北中学校	社会	文	歴史		
	静岡県	静岡県立沼津東高等学校	地理歴史	文	歴史		
静岡県	松崎町立松崎中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報			
近畿	大阪府	関西大倉高等学校	地理歴史・公民	文	人文		
中国	鳥取県	米子市立加茂中学校	英語	文	英語英米文		
	広島県	広島市立亀崎中学校	国語	文	日本文学文化		
	山口県	山口県立豊浦高等学校	公民	人間科	社会		
四国	香川県	香川県立高松商業高等学校	商業	商	マーケティング		
九州・沖縄	福岡県	福岡県立三井高等学校	地理歴史	経済	経済		
	熊本県	玉名市立玉南中学校	国語	文	日本文学文化		
	熊本県	玉名市立伊倉小学校	全科	文	日本文学文化		
	大分県	大分県立高田高等学校	国語	文	日本語		
	鹿児島県	樟南第二高等学校	商業	商	マーケティング		
沖縄県	興南高等学校	公民	文	哲			

平成25年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道	北海道	藤女子中学校・高等学校	公民	法	政治
				法	法律
関東	栃木県	栃木県立栃木翔南高等学校	公民	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	法	法律
	千葉県	君津市立松丘中学校	社会	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	二松學舎大学附属柏高等学校	公民	法	政治
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東亜学園高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	あきる野市立西中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都立日野台高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
	東京都	東京都立成瀬高等学校	公民	法	政治
東	神奈川県	伊勢原市立成瀬中学校	社会	法	法律
	神奈川県	横浜市立中川西中学校	社会	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	神奈川県	厚木市立南毛利中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	地理歴史	法	法律
	神奈川県	小田原市立千代中学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立新城高等学校	地理歴史(日本史)	法	政治
	神奈川県	横浜市立本郷中学校	社会	法	政治
	新潟県	新潟市立大形中学校	社会	法	法律
甲信越	新潟県	津南町立津南中学校	社会	法	政治
	山梨県	山梨県立甲府南高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
	静岡県	南伊豆町立南伊豆東中学校	社会	法	法律
東海	静岡県	藤枝明誠高等学校	地理歴史	法	政治
	近畿	大阪府	東大阪市立厩津中学校	社会	法
四国	香川県	香川誠陵中学校・高等学校	社会	法	法律
	九州	鹿児島県	鹿児島県立鹿児島中央高等学校	公民	法

平成25年度 教育実習先一覧（二部）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	青森県	東北町立上北中学校	社会	経済	経済
	山形県	山形県立新庄南高等学校	商業	商	マーケティング
関東	千葉県	旭市立飯岡中学校	社会	法	法律
	千葉県	旭市立飯岡小学校	全科	法	法律
	千葉県	勝浦市立勝浦中学校	社会	商	マーケティング
	東京都	桜美林中学校・高等学校	社会	法	法律
	東京都	文京区立第八中学校	社会	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	武蔵野市立第六中学校	社会	商	マーケティング
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	科目等履修生	
東	神奈川県	神奈川県立麻生高等学校	英語	科目等履修生	
	鳥取県	米子市立弓ヶ浜中学校	英語	科目等履修生	
九州	鹿児島県	鹿児島県立武岡台高等学校	公民	経済	経済
	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校	社会	科目等履修生	

平成25年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東東	埼玉県	さいたま市立中央図書館	文	日本文学文化	
	埼玉県	秩父市立秩父図書館	文	人・ジャーナリズム	
	千葉県	市川市中央図書館	文	歴史	
	東京都	小平市中央図書館	文	日本語	
	神奈川県	相模原市立相模大野図書館	文	日本語	
	神奈川県	川崎市立多摩図書館	文	日本語	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東東	神奈川県	専修大学図書館	文	哲	
	神奈川県	大和市立図書館	文	哲	
	神奈川県	横浜市中央図書館	文	歴史	
	神奈川県	専修大学図書館	文	歴史	
	神奈川県	専修大学図書館	文	歴史	
甲信越	長野県	市立飯山図書館	文	日本文学文化	

平成25年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
北海道	北海道	旭川市博物館	文	哲	
	北海道	札幌市豊平川さけ科学館	文	歴史	
東北	秋田県	秋田県立博物館	文学研究科		歴史学
	福島県	須賀川市立博物館	文	歴史	
関東東	茨城県	水戸芸術館現代美術センター	法	政治	
	茨城県	古河歴史博物館	文	日本文学文化	
	茨城県	坂東市立猿島資料館（さしま郷土館ミュージズ）	文	人・ジャーナリズム	
	栃木県	栃木県立なす風土記の丘資料館	文	歴史	
	群馬県	高崎市美術館	法	法律	
	埼玉県	さいたま市青少年宇宙科学館	文	日本文学文化	
	埼玉県	行田市郷土博物館	文	哲	
	埼玉県	埼玉県立さきたま史跡の博物館	文	歴史	
	千葉県	八千代市立郷土博物館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	経済	経済	
	東京都	調布市郷土博物館	法	法律	
	東京都	秩父宮記念スポーツ博物館	文	日本文学文化	
	東京都	東京都井の頭自然文化園	文	日本文学文化	
	東京都	東京都恩賜上野動物園	文	英語英米文	
	東京都	渋谷区立松濤美術館	文	英語英米文	
	東京都	八王子市郷土資料館	文	哲	
	東京都	明治大学博物館	文	歴史	
	東京都	弥生美術館・竹久夢二美術館	文	歴史	
	東京都	くにたち郷土文化館	文	歴史	
	東京都	科学技術館	文	歴史	
	東京都	板橋区立郷土資料館	文	歴史	
	東京都	日本民藝館	文	歴史	
	東京都	府中市郷土の森博物館	文	歴史	
	東京都	ハルテノン多摩	文	歴史	
	東京都	地下鉄博物館	文	歴史	
	東京都	東京都恩賜上野動物園	文	環境地理	
	東京都	進化生物学研究所	文	環境地理	
	東京都	ふれあい下水道館	文	人・ジャーナリズム	
	東京都	古代オリエント博物館	文	人・ジャーナリズム	

	所在地	実習館名	実習学生			
			学部	学科	専攻	
関東東	東京都	家具の博物館	人間科	社会		
	神奈川県	理科ハウス	経済	経済		
	神奈川県	電車とバスの博物館	法	政治		
	神奈川県	厚木市郷土資料館	経営	経営		
	神奈川県	神奈川県立公文書館	文	日本語		
	神奈川県	シルク博物館	文	日本文学文化		
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	文	日本文学文化		
	神奈川県	三溪園	文	日本文学文化		
	神奈川県	逗子市郷土資料館	文	歴史		
	神奈川県	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	文	歴史		
	神奈川県	横浜市歴史博物館	文	歴史		
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	歴史		
	神奈川県	はまざんこども宇宙科学館	文	環境地理		
	神奈川県	相模原市立博物館	文	環境地理		
	神奈川県	横浜都市発展記念館	文	人・ジャーナリズム		
	神奈川県	伊勢原市立子ども科学館	科目等履修生			
	甲信越	新潟県	新潟県歴史博物館（みなとびあ）	文	日本語	
		新潟県	新潟県立自然科学館	文	歴史	
新潟県		新潟県立歴史博物館	文	歴史		
山梨県		北杜市郷土資料館	経済	経済		
山梨県	山梨県	なかとみ現代工芸美術館	文	哲		
	山梨県	山梨県立考古博物館	文	歴史		
	山梨県	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館	文	歴史		
北陸	石川県	金沢ふるさと偉人館	文	歴史		
	石川県	羽咋市歴史民俗資料館	人間科	社会		
静岡県	静岡県	静岡県立美術館	文	哲		
	静岡県	富士市立博物館	文	歴史		
	静岡県	佐野美術館	文	歴史		
	静岡県	裾野市立富士山資料館	文	歴史		
関西	兵庫県	神戸市立須磨海浜水族園	文	日本語		
中国	鳥取県	公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館（わらべ館）	商	マーケティング		
	山口県	山陽小野田市歴史民俗資料館	文	歴史		
	山口県	下関市立美術館	文	人・ジャーナリズム		
九州・沖縄	沖縄県	浦添市美術館	経済	経済		

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成21年度	平21 経済・経済	柏市立豊四季中学校	専任	社会
	平21 経済・経済	厚木市立第二小学校	常勤	全科
	平18 経済・国際経済	名古屋市教育委員会（小学校）	専任	全科
	平21 経済・国際経済	日高市立高根小学校	専任	全科
	平13 法・法律	東京都教育委員会（中学校・高等学校）	専任	社会
	平21 法・法律	笛吹市立浅川中学校	非常勤	社会
	平21 商・会計	学校法人中央学院大学（中央学院大学中央高等学校）	非常勤	商業
	平18 文・英語英米文	東京都立上水高等学校	専任	英語
	平20 文・英語英米文	埼玉県教育委員会（中学校）	専任	英語
	平21 文・英語英米文	草加市立花栗中学校	期限付	英語
	平21 文・英語英米文	朝霞市立第一中学校	専任	英語
	平21 文・英語英米文	砺波市立庄川中学校	専任	英語
	平9 文・人文	神奈川県教育委員会（中学校）	専任	社会
	平16 文・人文	神奈川県教育委員会（中学校）	専任	社会
	平17 文・人文	海老名市立柏ヶ谷中学校	専任	社会
	平19 文・人文	仙台市立田子中学校	常勤	社会
	平19 文・人文	横浜市立獅子ヶ谷小学校	専任	全科
	平20 文・人文	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	臨時的任用	地理歴史
	平21 文・人文	鳥取市立宮ノ下小学校	常勤	全科
	平21 文・人文	横浜市立嶮山小学校	専任	全科
	平18 文・日本語日本文	東京都立王子特別支援学校	専任	国語
	平21 文・日本語日本文	学校法人東京文理学院高等部	常勤	国語
	平21 文・日本語日本文	渋谷区立広尾中学校	専任	国語
	平21 文・日本語日本文	福島県立塙工業高等学校	月手当講師	国語
	平21 文・心理	川島町立小見野小学校 川島町立八ッ保小学校 川島町立三保谷小学校 川島町立出丸小学校	非常勤	
	平19 院文・修士	相模原市立大野南中学校	専任	英語
	平21 院文・修士	座間市立相模中学校	専任	英語
	平20 経営・経営	埼玉県立伊奈学園総合高等学校 埼玉県立和光高等学校	非常勤	情報
	平20 経営・経営	学校法人聖徳学園（聖徳学園中学・高等学校）	非常勤	数学
	平成22年度	平15 法・法律	小山市立間々田小学校	専任
平22 法・政治		学校法人中央学院（中央学院大学中央高等学校）	非常勤	
平20 経営・経営		埼玉県立伊奈学園総合高等学校	非常勤	数学・情報
平22 経営・経営		専修大学松戸高等学校	非常勤	情報
平17 商・商業		神奈川県立相原高等学校	常勤	商業
平22 商・マーケティング		横浜市立富士見中学校	非常勤	社会
平22 商・会計		岐阜県立岐阜商業高等学校	常勤	商業
平14 文・国文		学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語
平22 文・日本語日本文		神奈川県立厚木北高等学校	常勤期限付	国語
平22 文・日本語日本文		学校法人麹町学園（麹町学園女子中学・高等学校）	常勤	国語
平22 文・日本語日本文		専修大学玉名高等学校	常勤	国語
平22 文・日本語日本文		学校法人明星学苑（明星中学高等学校）	非常勤	国語
平22 文・日本語日本文		学校法人翔英学園（米子北高等学校）	非常勤	国語
平22 文・日本語日本文		神奈川県立高等学校	常勤臨時的任用	国語
平22 文・英語英米文		岐阜県立益田清風高等学校	常勤	英語
平22 文・英語英米文		相模原市立二本松小学校	非常勤	全科
平22 文・英語英米文		学校法人明德学園（相洋中学校・相洋高等学校）	非常勤	英語
平22 文・英語英米文		横浜市立大曾根小学校	専任	全科
平22 文・英語英米文	学校法人国本学園（国本女子高等学校）	非常勤	英語	
平22 文・英語英米文	山梨県立都留高等学校	非常勤	英語	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科	
平成22年度	平22 文・英語英米文	学校法人松韻学院（松栄高等学校）	専 任	英 語	
	平22 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	英 語	
	平19 文・人文	白井市立南山中学校	専 任	社 会	
	平21 文・人文	米子市立住吉小学校	専 任	全 科	
	平22 文・人文	秋田県立横手清陵学院高等学校	常 勤	地 理 歴 史	
	平21 ネットワーク情報・ネットワーク情報	柏崎市立柏崎小学校	産 休 代 理	全 科	
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立三郷北高等学校	常勤期限付	数 学	
	平22 院経営・修士	学校法人北鎌倉女子学園（北鎌倉女子学園中学校・高等学校）	非 常 勤	情 報	
	平22 院商・修士	東京都立浅草高等学校 東京都立大崎高等学校 東京都立八王子桑志高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 東京都立葛飾ろう学校 東京都立篠崎高等学校 埼玉県立富士見高等学校	非 常 勤	商 業	
	平22 院文・修士	学校法人川村学園（川村中学校・川村高等学校）	期 限 付	国 語	
	平22 院文・修士	海老名市立大谷中学校	専 任	英 語	
	平成23年度	平20 経済・経済	埼玉県立坂戸西高等学校	専 任	情 報
		平21 経済・経済	東京都立清瀬特別支援学校	期 限 付	社 会
平23 経済・経済		長野原町立西中学校	期 限 付 (マイタワシティーチャー)		
平17 経営・経営		埼玉県立志木高等学校	専 任	情 報	
平17 商・商業		横浜市立戸塚高等学校	臨時的任用	地 理 歴 史	
平23 商・マーケティング		甲府市立甲府商業高等学校	期 限 付	商 業・情 報	
平22 文・日本語日本文		東京都立大崎高等学校	専 任	国 語	
平22 文・日本語日本文		川崎市立宮前平中学校	臨時的任用	国 語	
平23 文・日本語日本文		学校法人嘉悦学園（かえつ有明中学校・高等学校）	非 常 勤	国 語	
平23 文・日本語日本文		神奈川県立湘南高等学校	非 常 勤	国 語	
平23 文・日本語日本文		上田市立第五中学校	臨時的任用	国 語	
平23 文・日本語日本文		練馬区立南が丘中学校	期 限 付	国 語	
平23 文・日本語日本文		千葉県立館山総合高等学校	期 限 付	国 語	
平23 文・日本語日本文		学校法人錦城学園（錦城学園高等学校）	非 常 勤	国 語	
平23 文・日本語日本文		東京都立南平高等学校	常 勤	国 語	
平17 文・英語英米文		千葉県立松戸向陽高等学校	専 任	英 語	
平20 文・英語英米文		神奈川県立座間総合高等学校	専 任	英 語	
平21 文・英語英米文		神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校	専 任	英 語	
平22 文・英語英米文		学校法人豊昭学園（豊島学院高等学校）	専 任	英 語	
平22 文・英語英米文		神奈川県立相模原青陵高等学校	専 任	英 語	
平22 文・英語英米文		学校法人東海大学（東海大学付属高輪台高等学校）	非 常 勤	英 語	
平23 文・英語英米文		足立区立伊興中学校	期 限 付	英 語	
平23 文・英語英米文		学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常 勤	英 語	
平23 文・英語英米文		横須賀市立横須賀総合高等学校	非 常 勤	英 語	
平23 文・英語英米文		習志野市立第四中学校	常 勤	英 語	
平23 文・英語英米文		学校法人松韻学園（福島高等学校）	常 勤	英 語	
平23 文・英語英米文		横須賀市立鴨居中学校	専 任	英 語	
平21 文・人文		横浜市立藤が丘小学校	専 任	全 科	
平23 文・人文		学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民	
平23 文・人文		君津市立周西小学校	指導補助教員		
平23 文・人文		河内町立河内中学校	常 勤	社 会	
平18 ネットワーク情報・ネットワーク情報		埼玉県立北本高等学校	専 任	情 報	
平23 ネットワーク情報・ネットワーク情報		朝霞市立朝霞第五中学校	専 任	数 学	
平23 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立鶴見総合高等学校	専 任	情 報		
平19 院経営・修士	東京都立杉並総合高等学校	専 任	情 報		
平23 院文・修士	静岡県立伊東商業高等学校	専 任	英 語		
平23 院文・修士	神奈川県立釜利谷高等学校	臨時的任用	英 語		

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成24年度	平21 経済・経済	厚木市立戸室小学校	専 任	全 科
	平21 経済・経済	東京都立清瀬特別支援学校	専 任	特支小全科
	平24 経済・経済	学校法人淑徳学園 淑徳SC 中等部・高等部	非 常 勤	社 会
	平24 経済・経済	鴨川市立鴨川中学校	臨時的任用	社 会
	平20 経済・国際経済	学校法人大乗淑徳学園 (淑徳巣鴨中学高等学校)	常 勤	英 語
	平23 法・法律	江東区立数矢小学校	専 任	全 科
	平23 法・法律	下妻市立下妻東部中学校	非 常 勤	社 会
	平23 法・法律	川口市立青木中央小学校	臨時的任用	全 科
	平24 法・法律	流山市立八木中学校	非 常 勤	社 会
	平24 法・法律	射水市立小杉中学校	臨時的任用	社 会
	平24 法・政治	横浜市立緑が丘中学校	専 任	社 会
	平24 法・政治	高崎市立中尾中学校	専 任	社 会
	平24 法・政治	宇都宮市立清原中学校	非 常 勤	社 会
	平21 経営・経営	足立区立洲江小学校	専 任	全 科
	平16 商・商業	学校法人佐野日本大学学園 (佐野日本大学中等教育学校)	専 任	社 会
	平21 商・商業	船橋市立習志野台中学校	専 任	社 会
	平24 商・マーケティング	千葉市教育センター	家庭訪問相談員	全 科
	平24 商・会計	静岡県立相良高等学校	非 常 勤	商 業
	昭62・文・国文	神奈川県教育委員会	専 任	特支小全科
	平21 文・日本語日本文	日の出町立平井小学校	専 任	全 科
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立寒川高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	川崎市立宮前平中学校	専 任	国 語
	平23 文・日本語日本文	神奈川県立大和南高等学校	専 任	国 語
	平23 文・日本語日本文	練馬区立南が丘中学校	専 任	国 語
	平24 文・日本語日本文	沼津市立大岡中学校	専 任	国 語
	平24 文・日本語日本文	町田市立小山田中学校	期 限 付	国 語
	平24 文・日本語日本文	君津市立八重原中学校	そ の 他 (指導補助教員)	
	平24 文・日本語日本文	学校法人加藤学園 加藤学園高等学校	非 常 勤	国 語
	平24 文・日本語日本文	新潟県立羽茂高等学校	常 勤	国 語
	平24 文・日本語日本文	長野県蟻ヶ崎高等学校 長野県松本美須ヶ丘高等学校	非 常 勤	国 語
	平22 文・英語英米文	学校法人豊昭学園 豊島学院高等学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	神奈川県立山北高等学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	茨城県立盲学校	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	神栖市立波崎第三中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	横浜市立庄戸中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	学校法人矢野学園 (八王子実践中学・高等学校)	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	学校法人富田学園 岐阜卓中学校・高等学校	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	茅ヶ崎市立赤羽根中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	専修大学附属高等学校	非 常 勤	英 語
平23 文・人文	千葉市立朝日ヶ丘中学校	専 任	社 会	
平24 文・人文	菊川市立菊川西中学校	専 任	社 会	
平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	千葉県立袖ヶ浦高等学校	専 任	情 報	
平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人玉川学園 玉川学園中・高等部	常 勤	数 学	
平24 院経済・修士	神奈川県立生田高等学校	非 常 勤	公 民	
平22 院経営・修士	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専 任	情 報	
平24 院文・修士	学校法人早稲田高等学校 早稲田中学校	非 常 勤	社 会	
平24 院文・修士	神奈川県立平塚湘風高等学校	非 常 勤	国 語	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成25年度	平23 経済・経済	青梅市立今井小学校	専任	図工
	平24 経済・経済	茂原市立南中学校	非常勤	社会
	平25 経済・経済	千葉県立我孫子東高等学校	専任	公民
	平25 経済・経済	須賀川市立西袋第二小学校	臨時的任用	全科
	平23 法・法律	学校法人武陽学園（西武台高等学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民
	平23 法・法律	大田区立徳持小学校	専任	全科
	平25 法・法律	相模原市立相陽中学校	非常勤	社会
	平24 法・政治	神奈川県立横浜南養護学校	専任	社会
	平23 経営・経営	学校法人日本体育大学 柏日体高等学校	非常勤	地理歴史
	平25 経営・経営	学校法人白樺学園（白樺学園高等学校）	非常勤	商業
	平25 経営・経営	学校法人田中学園（水戸葵陵高等学校）	非常勤	公民
	平23 商・マーケティング	北九州市立青葉小学校	専任	全科
	平25 商・マーケティング	石川県立宝達高等学校	常勤	地理歴史・公民
	平25 商・マーケティング	栃木県立高根沢高等学校	常勤	商業
	平25 商・マーケティング	茨城県立水戸商業高等学校	常勤	商業
	平25 商・マーケティング	長野県阿智高等学校	非常勤	情報・商業
	平22 文・日本語日本文	長崎県立国見高等学校	常勤	国語
	平24 文・日本語日本文	町田市立小山田中学校	専任	国語
	平25 文・日本語日本文	川崎市立末長小学校	指導補助教員	
	平25 文・日本語日本文	学校法人中延学園（朋優学院高等学校）	非常勤	国語
	平25 文・日本語日本文	富山県立高岡工芸高等学校	非常勤	国語
	平25 文・日本語日本文	静岡市立高松中学校	常勤	国語
	平25 文・日本語日本文	能美市立辰口中学校	常勤	国語
	平25 文・日本語日本文	神奈川県立愛川高等学校	非常勤	国語
	平25 文・日本語日本文	神奈川県立横須賀大津高等学校	非常勤	国語
	平25 文・日本語日本文	那須町立黒田原中学校	期限付	国語
	平25 文・日本語日本文	学校法人成田山教育財団（成田高等学校）	非常勤	国語
	平25 文・日本語日本文	長崎県立波佐見高等学校	常勤	国語
	平25 文・日本語日本文	群馬県立富岡東高等学校	常勤	国語
	平19 文・英語英米文	神奈川県立城山高等学校	専任	英語
	平20 文・英語英米文	東京都立国際高等学校	専任	英語
	平21 文・英語英米文	川口市立仲町中学校	専任	英語
	平23 文・英語英米文	品川区立東海中学校	専任	英語
	平23 文・英語英米文	新潟県立十日町高等学校	専任	英語
	平25 文・英語英米文	横浜市立鶴ヶ峯中学校	専任	英語
	平23 文・人文	横浜市立上白根小学校	専任	全科
	平24 文・人文	神奈川県教育委員会	専任	地理歴史
	平25 文・人文	静岡市立長田西中学校	常勤	社会
	平25 文・人文	学校法人國學院大學（國學院大学久我山中学・高等学校） 学校法人東洋高等学校（東洋高等学校）	非常勤	社会・地理歴史 公民
	平25 文・人文	川崎市立川崎中学校	非常勤	社会 特別支援
	平24 文・心理	大田区立馬込第二小学校	専任	全科
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立桶川高等学校	専任	数学
平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人大森学園（大森学園高等学校）	非常勤	数学	
平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	東京都立東高等学校	非常勤	情報	
平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	館山市立第二中学校	期限付	数学	
平25 院経営・修士	学校法人立教学院（立教新座中学校・高等学校）	非常勤	情報	
平23 院文・修士	神奈川県立小田原城北工業高等学校	専任	英語	
平24 院文・修士	学校法人向上学園（自修館中等教育学校）	常勤	英語	
平25 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語	
平25 院文・修士	川崎市立南加瀬中学校	非常勤	社会	

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

勤 務 先	勤 務 先
日本医科大学図書館	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
信州大学附属図書館	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
大和市立図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
武蔵大学図書館	（株）雄松堂書店
東京大学法学部図書館	青山学院女子短期大学図書館
日外アソシエーツ（株）	国土館大学鶴川図書館
見附市立図書館（新潟県）	追手門学院大学附属図書館
（株）有隣堂	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
女子栄養大学図書館	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	神奈川県立川崎高等学校
東京医科大学図書館	横須賀市立中央図書館
杉並区中央図書館（東京都）	三省堂書店
横浜市立図書館	神奈川県立図書館
土木学会附属土木図書館	江東区立亀戸図書館
専修大学図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
八街市立図書館（千葉県）	法政大学多摩図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	勤 務 先
宮城県栗原市役所	逓信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武都市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市歴史資料館	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館

平成25年度 資格課程年間行事表

課程		教職課程		司書課程		司書教諭課程		学芸員課程	
月		行事	対象年次	行事	対象年次	行事	対象年次	行事	対象年次
4月	上旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※ 一部3月履修科目登録および履修修正（全学年）							
	中旬	介護等の体験事前オリエンテーション	3・4						
		実習希望校との内諾交渉 介護等の体験事前講習会	3 3・4						
5月	上旬	教育実習事前ガイダンス 教育実習 (5月～11月)	4 4						
	下旬							館務実習事前ガイダンス 博物館見学実習	3・4 3・4
6月	上旬	教育実習登録ガイダンス 教育実習内諾書の提出 介護等の体験開始 (6月上旬～3月上旬)	3 3・4 3						
	下旬	教員免許状一括申請ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス (3年次までに司書教諭の単位をすべて修得した者)	4		
7月	上旬							博物館実習（館務実習） (5月～12月)	3・4
	下旬	前期試験（全学年）							
8月	夏期休暇（8月上旬～9月中旬） 前期追試験（全学年）								
		図書館実習 (8月～10月)	3・4						
	夏期休暇								
9月	下旬	教員免許状授与申請書 確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス (4年次で司書教諭の科目を履修した者)	4	館務実習登録ガイダンス (第1回)	2・3
10月	上旬	教職公開講座	1～4						
11月	中旬							学芸員資格取得証明書交付 申請手続き 館務実習登録ガイダンス (第2回)	4 2・3
	下旬	教育学会	1～4						
12月	上旬			司書課程就職 (進路)懇談会	1～4			実習希望博物館との内諾交渉	2・3
1月	中旬	後期試験（全学年）							
2月	中旬	後期追試験（全学年）							
								館務実習承諾書の提出	2・3
3月	22日	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成25年度 教職公開講座開催結果

1. 開催日 平成25年10月5日(土)
2. 時間 13時00分～17時10分
3. 場所 専修大学生田校舎1号館
4. 参加者数 I部：162名 II部：299名
5. 内容

(1) 採用試験体験談および優れた教育実践に学ぶ①－今の教育現場について－(専大OB・OG)

講師 (卒業年・学部・学科)	勤務先	科目
鈴木大慈先生 (平成24年3月 文学部日本語日本文学科 日本文学文化専攻 卒業)	町田市立小山田中学校	国語
今井佳奈子先生 (平成21年3月 文学部 英語英米文学科 卒業)	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校	英語
大内雄介先生 (平成24年3月 法学部 政治学科 卒業)	神奈川県立横浜南養護学校	社会
小口英臣先生 (平成15年3月 商学部 商業学科 卒業)	長野県明科高等学校	公民
進士勇介先生 (平成22年3月 商学研究科商学専攻 修了)	東京都立八王子拓真高等学校	商業
川道瞬先生 (平成22年3月 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 卒業)	埼玉県立桶川高等学校	数学
程島将先生 (平成23年3月 法学部 法律学科 卒業)	大田区立徳持小学校	小学校
暮松なつみ先生 (平成23年3月 文学部 人文学科 環境地理学専攻 卒業)	横浜市立上白根小学校	

(2) 優れた教育実践に学ぶ②－求められる教師像－

講師	神奈川県総合教育センター 元神奈川県立百合丘高等学校長 安藤晴敏先生
----	---------------------------------------

(3) タイムテーブル

	時間	内容	場所
I部 13:00 } 13:55	13:00～13:05	講師の紹介	該当教室
	13:05～13:55 (50分)	採用試験体験談① 国語 鈴木大慈先生 社会 大内雄介先生 商業 進士勇介先生 小学校 程島将先生	132教室 133教室 123教室 121教室
		採用試験体験談② 英語 今井佳奈子先生 地歴・公民 小口英臣先生 情報・数学 川道瞬先生 小学校 暮松なつみ先生	132教室 133教室 123教室 121教室
II部 14:00 } 17:00	14:00～14:15	オリエンテーション	114教室
	14:15～15:45 (90分)	優れた教育実践に学ぶ① －今の教育現場について－ 国語 鈴木大慈先生 英語 今井佳奈子先生 社会 大内雄介先生 程島将先生 地歴・公民 小口英臣先生 暮松なつみ先生 商業 進士勇介先生 情報・数学 川道瞬先生	117教室 124教室 132教室 133教室 123教室 125教室
	15:45～15:55	休憩	
	15:55～16:55 (60分)	優れた教育実践に学ぶ② －求められる教師像－ 神奈川県総合教育センター 元神奈川県立百合丘高等学校長 安藤晴敏先生	114教室
	16:55～17:10	まとめ	114教室

平成25年度 司書課程就職（進路）懇談会開催結果

1. 開催日：平成25年12月7日（土）
2. 時間：15:00～16:30
3. 場所：神田校舎 771 教室（7号館）
4. ゲスト：加藤 梢さん（本学文学部卒業生）
5. 参加者数：19名
6. 内容：大和市立図書館で司書として働く加藤氏より、児童サービスやブックスタートなどの読書推進活動、講座・行事、団体貸出し、学校との連携、業務統計等の日常業務について、写真やホームページを見ながら具体的なお話を伺った。特に、公務員として携わる図書館業務の内容、楽しさや苦心している点などの丁寧な説明があった。また、公務員試験に向けての準備、司書課程の学習で役に立った内容、日常業務に必要な知識や技術についても話題になった。閉会后もしばらくの間、担当教員、加藤氏、参加した学生間での和やかな懇談が続いた。



平成25年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経済学部	教授	矢吹 芳洋	公民科教育研究1・2
法学部	教授	広瀬 裕子	教育行政学
法学部	准教授	鈴木 秀光	法律学a・b
法学部	准教授	森田 司郎	道德教育指導論
経営学部	教授	嶺井 正也	教育行政学
商学部	教授	蔭山 雅博	地理歴史科教育研究1・2
商学部	教授	中野 育男	商業科教育研究1・2
文学部	教授	新井 勝紘	日本史a・b
文学部	教授	江崎 雄治	人文地理学概論b
文学部	教授	大庭 健	倫理学a・b
文学部	教授	片桐 一彦	英語科教育研究1・2
文学部	教授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文学部	教授	苅谷 愛彦	地誌学a・b
文学部	教授	小峰 直史	教職入門
文学部	教授	高橋 龍夫	国語科教育研究1・2
文学部	教授	田邊 祐司	英語科教育研究3・4
文学部	教授	仲川 恭司	書道科教育研究1・2
文学部	教授	貫 成人	哲学a・b
文学部	教授	廣瀬 玲子	中国文学講義a・b
文学部	教授	米田 巖	地理学a・b
文学部	教授	松尾 容孝	人文地理学概論a
文学部	講師	赤坂 郁美	自然地理学概論b
ネットワーク情報学部	教授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	准教授	望月 俊男	情報科教育研究2
経済学部	兼任講師	崔 玉芬	心身の発達と学習の過程
経済学部	兼任講師	種藤 博	社会科教育研究1・2
経済学部	兼任講師	増田 純一	社会科教育研究1・2
法学部	兼任講師	荒井 明夫	社会科教育研究1・2
法学部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法学部	兼任講師	高田 貫太	日本史a・b
法学部	兼任講師	中村 文夫	教育行政学
法学部	兼任講師	松村 芳明	法律学a・b
法学部	兼任講師	宮崎 孝治	教育原論
法学部	兼任講師	森 美保子	教育相談の理論と方法
経営学部	兼任講師	伊東 洋一	情報と職業
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育原論
経営学部	兼任講師	杉田かおり	道德教育指導論
商学部	兼任講師	泉 貴久	地理学a・b
商学部	兼任講師	岩田 公夫	教職入門
商学部	兼任講師	神山 安弘	教育実習
商学部	兼任講師	小長野航太	倫理学a・b
商学部	兼任講師	高崎 彰	生徒・進路指導論
商学部	兼任講師	藤本 一美	地理学a・b
商学部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論a・b
商学部	兼任講師	正野 泰周	倫理学a・b
商学部	兼任講師	三浦 朋子	社会科教育研究3・4

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
文学部	兼任講師	岡 秀一	地誌学a・b
文学部	兼任講師	小林 克則	外国史a・b
文学部	兼任講師	周藤新太郎	外国史a・b
文学部	兼任講師	角田 清美	地誌学a・b
文学部	兼任講師	滝澤 武	英語科教育研究1・2
文学部	兼任講師	田口 博子	宗教学a・b
文学部	兼任講師	田中 禎昭	日本史a・b
文学部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育研究3・4
文学部	兼任講師	服部あさこ	教育社会学
文学部	兼任講師	村松 弘一	外国史a・b
文学部	兼任講師	山下 直	国語科教育研究1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	飯塚 久男	教育方法論
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育研究1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	脇本 健弘	情報科教育研究1

《司書・司書教諭》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経営学部	教授	大曾根 匡	図書館情報技術論
文学部	教授	荻原 幸子	図書館概論
文学部	教授	山田 健太	コミュニケーション論
文学部	准教授	野口 武悟	学校経営と学校図書館
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法学部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報メディアの活用
法学部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学校図書館メディアの構成
経営学部	兼任講師	廣澤 敏夫	図書館情報技術論
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文学部	兼任講師	石原 眞理	図書館サービス概論
文学部	兼任講師	太田 順子	図書館情報資源特論
文学部	兼任講師	汐崎 順子	児童サービス論
文学部	兼任講師	須賀 千絵	図書館経営論
文学部	兼任講師	鈴木 孝雄	コミュニケーション論
文学部	兼任講師	大作 光子	学校図書館メディアの構成
文学部	兼任講師	千代原真智子	児童サービス論
文学部	兼任講師	中川 恭一	図書館経営論
文学部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス演習2
文学部	兼任講師	成松 一郎	図書館サービス特論
文学部	兼任講師	長谷川昭子	図書館サービス概論

《学芸員》

所属学部	職名	氏名	主要な担当科目
経営学部	教授	内田 欽三	博物館概論
文学部	准教授	高島 裕之	博物館実習
経営学部	兼任講師	小瀬戸恵美	博物館資料保存論

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

パッソパッソの第16号をお届けします。

今号から表紙のデザインと誌面のレイアウトが若干変わりました。お気づきになりましたか。表紙のデザインと誌面のレイアウトはだいたい5年ごとに変わります。同じ表紙デザインを使う5年の間では、色が変わります。

デザインの他に、今号から変わった部分もうひとつあります。『教職総仕上げ「教職実践演習」』という新しいコーナーができました。今年度から「教職実践演習」という授業が展開されたことに伴っての対応です。「教職実践演習」の開設は、全国的に進む教員養成制度と教員免許制度の改革の一部をなすものですが、文字通り、教職総仕上げとして4年生の後期に必修で履修することになりました。全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる授業だと文科省は解説しています。

受講生は教育実習を既に経験した学生たちであり、なかなかインテンシブな授業になっています。来年度以降にこの授業を履修する学生の皆さんにも、授業の一端を知ってもらいたいと作ったコーナーでもあります。

編集大詰め1月に広瀬が体調を崩しました。他のスタッフに助けられました。執筆者の皆さん、スタッフの皆さんに改めて感謝です。

編集委員長

広瀬 裕子

編集委員

内田 欽三

嶺井 正也

中野 育男

鐘ヶ江晴彦

野口 武悟

平成25年度 専修大学

資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成26年4月1日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL http://www.senshu-u.ac.jp/sc_grsc/shikaku/

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791



専修大学